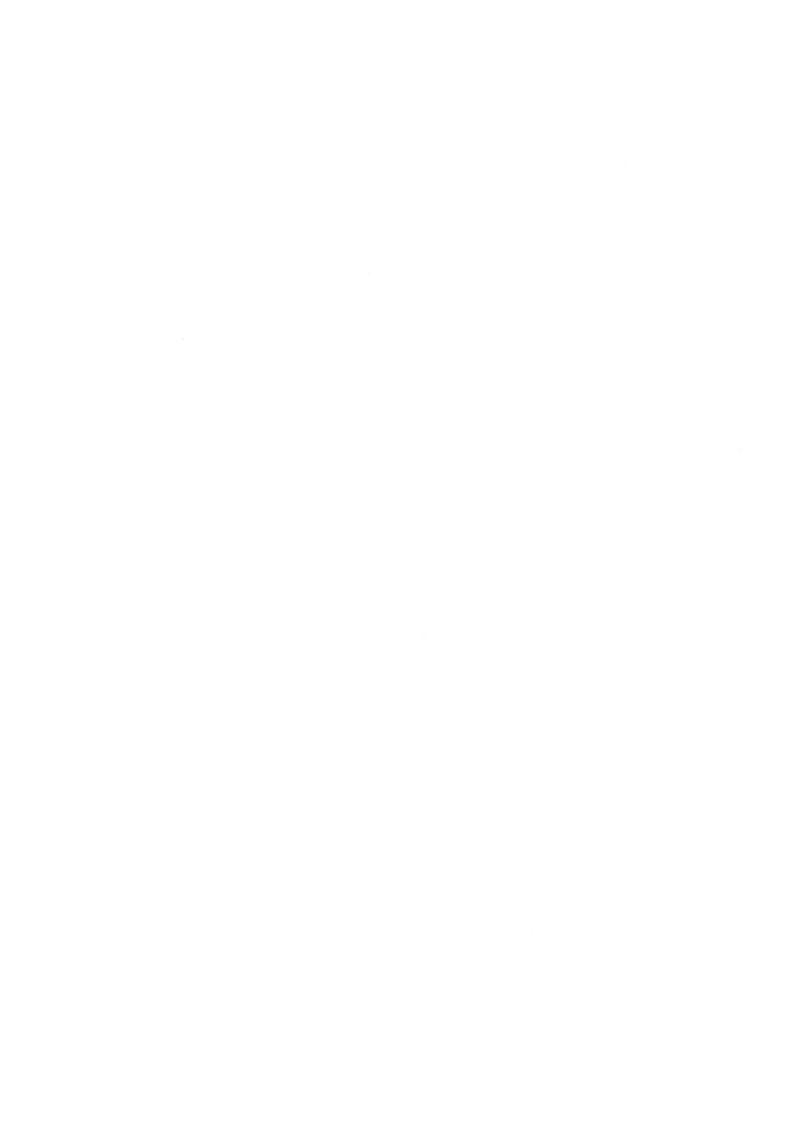
指宿市考古博物館 時遊館 CoCCoはしむれ

平成 17:18 年度

博物館年報·紀要

第 7 号

平成19年3月指宿市教育委員会



| | | 正誤表 | | |
|----------|----------|--------------|----|------------------------|
| 箇所 | | 誤 | | Œ |
| 48頁本文1行目 | 指宿市考古博物館 | 時遊館COCCOはしむれ | は, | 指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれは, |

目次

平成 17 年度年報編

| 1. | . 博物館事業の部 |
|-----|--|
| | (1) ゴールデンウィークイベント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| | (2) 学びのふるさと講座 歴史探訪(全7回)・・・・・・・・・・・] |
| | (3) はしむれ土曜体験館事業・・・・・・・・・・・・・・・2 |
| | (4) ミニ企画展『海の宝石 いぶすきの貝たち』・・・・・・・・・・・4 |
| | (5) いぶすきシルバー美術展・・・・・・・・・・・・・・・・・・4 |
| | (6) 博物館実習生の受入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| | (7) 学習支援活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4 |
| | (8) 移動博物館推進事業「博物館がやってきた」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| | (9) 平成 17 年度企画展指宿歴史物語『いぶすき国盗り物語』・・・・・・・・・7 |
| | |
| 2. | 後援・共催・協賛事業の部 |
| | (10) 時遊館COCCOはしむれ友の会活動支援・・・・・・・・・・・・・・・8 |
| | (11) いぶすきものづくりグループ展・・・・・・・・・・・・・・・・8 |
| | |
| 3 . | ・ 発掘調査の部 - The state of the |
| | (12) 広域営農団地農道整備事業に伴う幸屋遺跡確認調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| | (13) 広域営農団地農道整備事業に伴う西多羅ヶ迫遺跡発掘調査・・・・・・・・・・・10 |
| | (14) 敷領遺跡確認調査 · · · · · · · · 10 |
| _ | |
| 4 . | 文化財保護管理の部 |
| | (15) 国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡買上事業 · · · · · · · · · · · · · · · · · · · |
| | (16) 指定文化財管理 · · · · · · · · · · · · · · · · · · · |
| = | 刊行物の部 |
| υ. | (17) 平成 17 年度企画展指宿歴史物語『いぶすき国盗り物語』展示図録刊行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| | (18) 市内遺跡範囲確認調査報告書刊行 |
| | |
| 亚 | 成 18 年度年報編 |
| | 博物館事業の部 |
| ٠. | (1) ゴールデンウィークイベント・・・・・・・・ 11 |
| | (2) 学びのふるさと講座 歴史探訪(全6回)・・・・・・・・12 |
| | (3) 文化体験プログラム事業・・・・・・・・・・・12 |
| | (4) ミニ企画展『海の宝石 いぶすきの貝と知林ヶ島の昆虫たち』・・・・・・・・・・14 |
| | (5) いぶすきシルバー美術展・・・・・・・・・・14 |
| | (6) 博物館実習生の受入・・・・・・・・・・・14 |
| | (7) 学習支援活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・14 |
| | (7) 子自又版/1到 (8) 平成 19 年度企画展『大好寺 投字展 新丁八利 たちのきちの歴中 『 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 |

2. 後援・共催・協賛事業の部 (9) 時遊館COCCOはしむれ友の会活動支援······17 (10)「わが国の火山噴火罹災地における生活・文化環境の復元」プロジェクト・・・・・・・・・・・17 (11) 時遊館COCCOはしむれ開館 10 周年記念フォーラム「火山灰で埋もれた都市とムラ」………… 18 (12) 平成 18 年度鹿児島大学附属図書館貴重資料公開「描かれた自然 江戸の植物図」・・・・・・・・18 3. 発掘調査の部 (16) 慶固遺跡発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20 (17) 広域営農団地農道整備事業に伴う西多羅ヶ迫遺跡発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・21 (18) 丹波小学校改築事業に伴う南丹波遺跡試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・21 4. 文化財保護管理の部 5. 刊行物の部 (21) 市内遺跡確認調査報告書刊行 22 (22) 新番所後遺跡発掘調査報告書刊行 · · · · · · · 22 紀要編 「温湯地区の地層保存処理について」社会教育課文化財係 鎌田洋昭・・・・・・・・・・・・・23 「今和泉島津家墓地について」社会教育課文化財係 中摩浩太郎 ・・・・・・・・・・・・25 「西之表市岳之田集落と山川福元区-種子島にあった福元集落-」山川支所教育課参事 松下尚明 ………41 フォーラム「火山で埋もれた都市とムラーイタリア・日本・インドネシアー」を開催して 一アンケートの集計から一 お茶の水女子大学 鷹野光行・・・・・48

【謝辞】

紀要編に収録した『フォーラム「火山で埋もれた都市とムラーイタリア・日本・インドネシアー」を開催して 一アンケートの集計から一』については、お茶の水女子大学鷹野光行先生に原稿をいただいた。 記して感謝いたします。

平成17年度年報編

各事業の実績と展開

平成 17 年度に実施した主な事業は以下の通りである。以下、その概要を記す。

1. 博物館事業の部

- (1) ゴールデンウィークイベント「わくわく体験学習フェスタ」
 - ■勾玉作り、ペーパークラフト、あんぎん編み体験、絵付け体験
 - a. 日時 平成17年4月29日~5月8日 10:30~15:00
 - b. 場所 時遊館COCCOはしむれ1階講堂, 前庭
 - c. 参加 81名
 - ■シャボン玉体験・弓矢作り体験・むかし遊び体験
 - a. 日時 平成17年5月1日,3日,5日 10:30~15:00
 - b. 場所 時遊館COCCOはしむれ2階ロビー
 - c. 参加 47名
 - ■ふるさとマップ展
 - a. 日時 平成17年4月29日~5月8日
 - b. 場所 時遊館COCCOはしむれ1階ロビー
 - c. 内容 市内指定文化財をパネル写真で紹介



(2) 学びのふるさと講座 歴史探訪(全6回)

a. 目的 鹿児島国際大学と連携し、生涯学習の一環として全 10 回の講座を実施、うち7講座を博物館で開催した。 講座生を募集して参加を募るとともに、一般聴講者も参加できるものとした。

b. 実施状況

| | 開催日 | テーマ | 講師 | 対象 | 曜日 | 時間 | 参加者 |
|---|--------|---------------------------------------|-------|----|----|-------------|-----|
| 1 | 6月18日 | 薩摩半島南部の自然 一動物(特に昆虫)を中心に一 | 成見 和總 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 40 |
| 2 | 7月2日 | 薩摩半島南部の自然 一植物を中心に一 | 大野 照好 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 22 |
| 3 | 7月23日 | 原始・古代における南方世界との交流 | 上村 俊雄 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 34 |
| 4 | 9月17日 | 奈良・天平時代の薩摩の文化 | 中村 明蔵 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 26 |
| 5 | 10月8日 | 弥生時代はいつ始まったか? -科学と考古学が探る縄文・弥生の実年代- | 中園 聡 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 34 |
| | | 鹿児島国際大学 考古学ミュ・ジアム見学 | | | | | |
| 6 | 11月19日 | 先史・古代の男と女 ージェンダー考古学の現在ー | 中園 聡 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 21 |
| 7 | 12月3日 | 奈良・天平時代の薩摩の文化 | 中村 明蔵 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 23 |
| | | 合計 | | | | | 200 |

(3) はしむれ土曜体験館事業

a.目的 ふるさとの自然や文化財等を活用し、体験学習を実施することで、郷土教育を行うとともに青少年活動の 充実を図り、健全な青少年を育成する。本事業は、平成 15 年度より、文部科学省の主催する地域教育力 再生プランの一環として実施している。17 年度は、より身近な施設での体験学習が可能となるよう、市内 の各校区公民館でも各学期に 1 回ずつ行った。

b. 実施状況

| | 体験学習名 | 学習概要 | 実施日 | 小学生 | 中学生 | 幼児 | 一般 | 合計 |
|----|------------------------------------|---|--------|-----|-----|----|----|-----|
| 1 | 粘土で遊ぶ「箸おき作 りと陶芸体験」 | ロクロをまわして湯飲みや茶碗を作る。 | 6月4日 | 19 | 1 | 1 | 11 | 32 |
| 2 | リサイクルおもちゃを 作ろう「めくるめく万 華鏡の世界」 | 身近な道具をリサイクルして万華鏡作りに チャレンジ。リサイクルについて学習。 | 6月18日 | 24 | 0 | 1 | 0 | 25 |
| 3 | 折り紙「動物園」教室 | 折り紙でいろんな動物を作ります。作品展示を実施。 | 7月9日 | 14 | 0 | 6 | 4 | 24 |
| 4 | 海の宝石「貝殻」で動 物を作ろう | いろんな種類の貝を組み合わせて、動物や小 物を製作。 | 7月23日 | 19 | 0 | 3 | 6 | 28 |
| 5 | 地球がキャンバス「石 ころアート体験」 | 海岸で拾った石ころが立体アートに変身。身 近な素材を使って自由な発想で絵を描く。 | 8月6日 | 18 | 0 | 0 | 2 | 20 |
| 6 | 楽しい実験!シャボン 玉ファンタジー | 弾むシャボン玉や人が入れるシャボン玉など を実験を交えながら作る。 | 8月27日 | 14 | 0 | 5 | 6 | 25 |
| 7 | かわいい動物のランプシェー ド作り | クリアファイルを利用し、ゾウやカンガルー など動物のランプシェードを製作。 | 9月3日 | 17 | 0 | 0 | 9 | 26 |
| 8 | おいしく手作り味噌作 | 味噌作りにチャレンジし日本の伝統的な食文 | 9月23日 | 13 | 1 | 0 | 0 | 26 |
| 0 | り体験 | 化を学ぶ。 | 25⊟ | 11 | 1 | 0 | 0 | 20 |
| | チューリップを咲かせ よう「オリジナル植木 鉢作り」 | 陶芸用の粘土でオリジナルの植木鉢を製作。 | 10月1日 | 10 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| 10 | 縄文どんぐりクッキー 作り体験 | 縄文時代にもあったどんぐりクッキー。クッキー作りを通じて縄文時代の食文化を学ぶ。 | 11月19日 | 23 | 0 | 0 | 2 | 25 |
| 11 | 草木染め&そばかり | ネッカチーフとハンカチの草木染め体験とそばの収穫。 | 11月26日 | 7 | 0 | 0 | 11 | 18 |
| 12 | 国際文化体験「クリスマス飾 り作り」 | 英会話等を交えながらのクリスマス飾りを作 りツリーに飾りる。 | 12月10日 | 14 | 0 | 0 | 2 | 16 |
| 13 | そばうち体験 | 自分たちで植えたそばを調理。9月に作った味噌で汁も作る。 | 1月21日 | 9 | 0 | 1 | 11 | 21 |
| 14 | ふるさと史跡めぐり | 新市の文化財を探訪。 | 2月25日 | 13 | 0 | 1 | 3 | 17 |
| 15 | 春の野草を食べてみよう | 春の魚見岳に登って、食べられる野草をてん ぷらに。 | 3月11日 | 8 | 0 | 2 | 6 | 16 |
| | | 合 計 | | 233 | 3 | 20 | 73 | 329 |

| | 校区公民館 | 体験学習名 | 実施日 | 小学生 | 中学生 | 幼児 | 一般 | 合計 |
|---|----------|--------------------------------|--------|-----|-----|----|----|-----|
| | | 楽しい実験!シャボン玉ファンタジー | 7月2日 | 25 | 0 | 0 | 0 | 25 |
| 1 | 今和泉校区公民館 | かわいい動物のランプシェード作り | 10月15日 | 21 | 0 | 0 | 0 | 21 |
| | | リサイクルおもちゃを作ろう「めくるめく万 華鏡の世界」 | 2月18日 | 22 | 0 | 0 | 2 | 24 |
| | | 楽しい実験!シャボン玉ファンタジー | 7月2日 | 20 | 0 | 6 | 6 | 32 |
| 2 | 指宿校区公民館 | かわいい動物のランプシェード作り | 10月15日 | 14 | 0 | 0 | 0 | 14 |
| | | リサイクルおもちゃを作ろう「めくるめく万 華鏡の世界」 | 2月18日 | 17 | 0 | 1 | 2 | 20 |
| | | 楽しい実験!シャボン玉ファンタジー | 7月2日 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 3 | 魚見校区公民館 | かわいい動物のランプシェード作り | 10月22日 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | リサイクルおもちゃを作ろう「めくるめく万 華鏡の世界」 | 3月11日 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | * | 楽しい実験!シャボン玉ファンタジー | 6月11日 | 19 | 0 | 0 | 0 | 19 |
| 4 | 池田校区公民館 | かわいい動物のランプシェード作り | 10月22日 | 6 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | | リサイクルおもちゃを作ろう「めくるめく万 華鏡の世界」 | 2月18日 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| | | 楽しい実験!シャボン玉ファンタジー | 6月11日 | 19 | 0 | 5 | 9 | 33 |
| 5 | 柳田校区公民館 | かわいい動物のランプシェード作り | 10月22日 | 8 | 0 | 1 | 2 | 11 |
| | | リサイクルおもちゃを作ろう「めくるめく万 華鏡の世界」 | 3月11日 | 4 | 0 | 0 | 2 | 6 |
| | | 合 計 | | 186 | 0 | 13 | 23 | 222 |

| | 校区公民館 | 体験学習名 | 実施日 | 小学生 | 中学生 | 幼児 | 一般 | 合計 |
|---|----------|----------------------------|--------|-----|-----|----|----|-----|
| | | 楽しい実験!シャボン玉ファンタジー | 7月2日 | 25 | 0 | 0 | 0 | 25 |
| 1 | 今和泉校区公民館 | かわいい動物のランプシェード作り | 10月15日 | 21 | 0 | 0 | 0 | 21 |
| | | リサイクルおもちゃを作ろう「めくるめく万華鏡の世界」 | 2月18日 | 22 | 0 | 0 | 2 | 24 |
| | | 楽しい実験!シャボン玉ファンタジー | 7月2日 | 20 | 0 | 6 | 6 | 32 |
| 2 | 指宿校区公民館 | かわいい動物のランプシェード作り | 10月15日 | 14 | 0 | 0 | 0 | 14 |
| | | リサイクルおもちゃを作ろう「めくるめく万華鏡の世界」 | 2月18日 | 17 | 0 | 1 | 2 | 20 |
| | | 楽しい実験!シャボン玉ファンタジー | 7月2日 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 3 | 魚見校区公民館 | かわいい動物のランプシェード作り | 10月22日 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | リサイクルおもちゃを作ろう「めくるめく万華鏡の世界」 | 3月11日 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | 楽しい実験!シャボン玉ファンタジー | 6月11日 | 19 | 0 | 0 | 0 | 19 |
| 4 | 池田校区公民館 | かわいい動物のランプシェード作り | 10月22日 | 6 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | | リサイクルおもちゃを作ろう「めくるめく万華鏡の世界」 | 2月18日 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| | | 楽しい実験!シャボン玉ファンタジー | 6月11日 | 19 | 0 | 5 | 9 | 33 |
| 5 | 柳田校区公民館 | かわいい動物のランプシェード作り | 10月22日 | 8 | 0 | 1 | 2 | 11 |
| | | リサイクルおもちゃを作ろう「めくるめく万華鏡の世界」 | 3月11日 | 4 | 0 | 0 | 2 | 6 |
| | | 승 計 | | 186 | 0 | 13 | 23 | 222 |









(4) ミニ企画展『海の宝石 いぶすきの貝たち』

- a. 目的 貝の名付け会の開催に合わせて、標本展示を行うことで児童・生徒の学習の一助となる.
- b. 開催期間 平成 17年8月23日(火)~9月30日(金)
- d. 開催場所 2階特別展示室
- e. いぶすき近海の貝, 奄美大島近海の貝, 橋牟礼川遺跡の貝塚(平安時代), 市来貝塚の貝(縄文時代)など 932 種約 1200 点を展示
- f. 入場者数 1,103名





(5) いぶすきシルバー美術展

鹿児島県内在住の 60 歳以上の方々の絵画作品を公募し、一堂に展示するユニークな美術展である。創作活動の一般公開の場として、また、芸術文化の振興に寄与することを目的として平成2年度から開催しており、今年度で第 16 回目を迎える。

- a. 日時 平成 17年8月10日(日)~24日(日)
- b. 主催 指宿市・指宿市教育委員会・指宿市文化協会
- c. 出展作品数 233点(市内31点·市外202点)
- d. 出展者数 165名(市内17名・市外148名)
- e. 入場者数 3,000 名



(6) 博物館実習生の受入

平成8年度より博物館実習生の受入を実施している。平成17年度は、4名の実習生を受け入れた。

- a. 期 間 平成17年8月1日(金)~8月10日(日)
- b. 実習生 鹿児島大学3名, 九州東海大学1名,
- c. 実習概要 発掘調査,企画展立案,博物館資料整理,ワークシート作成等.

(7) 学習支援活動

来館者に対する学習支援活動の他, 職場体験学習の受入, 市内各学校の総合的な学習の時間の支援等を実施している。 実施状況は, 次のとおりである。

職場体験学習 北指宿中学校 平成 17年5月16日(火),17日(水) 3名

南指宿中学校 平成17年9月27日(水),28日(金) 7名

指宿商業高校 平成17年2月2日(水)~4日(金) 3名

| | В | 団体名 | 人数 |
|----|----------|-------------|-----|
| 1 | 4月19日(火) | 前之浜小学校6年生 | 11 |
| 2 | 4月23日(土) | 丹波小学校2年生 | 25 |
| 3 | 4月26日(火) | 丹波小学校3年生 | 34 |
| 4 | 5月 6日(火) | 九玉小学校6年生 | 13 |
| 5 | 5月11日(水) | 開聞小学校1年生 | 37 |
| 6 | 5月12日(木) | 川東小学校 | 78 |
| 7 | 5月13日(金) | 東小学校6年生 | 82 |
| 8 | 5月13日(金) | 串間小学校 | 31 |
| 9 | 5月13日(金) | 谷山北中学校3年生 | 131 |
| 10 | 5月19日(木) | 恒吉小学校5・6年生 | 23 |
| 11 | 5月19日(木) | 福平中学校1年生 | 155 |
| 12 | 5月19日(木) | 五十市小学校 | 115 |
| 13 | 5月19日(木) | 南小学校 | 167 |
| 14 | 5月19日(木) | 勝岡小学校 | 51 |
| 15 | 5月19日(木) | 三股西小学校 | 138 |
| 16 | 5月20日(金) | 富吉小学校 | 15 |
| 17 | 5月20日(金) | 潮見小学校6年生 | 108 |
| 18 | 5月20日(金) | 高城小学校6年生 | 76 |
| 19 | 5月20日(金) | 菓子野小学校 | 41 |
| 20 | 5月25日(水) | 尾野見小学校5・6年生 | 30 |
| 21 | 5月25日(水) | 財部南小学校 | 26 |
| 22 | 5月26日(木) | 百引小学校 | 25 |
| 23 | 5月26日(木) | 住吉南小学校 | 91 |
| 24 | 5月26日(木) | 安楽小学校 | 32 |
| 25 | 5月26日(木) | くまむら連合小学校 | 73 |
| 26 | 5月26日(木) | 乙房小学校 | 23 |
| 27 | 5月27日(金) | 高原町連合小学校 | 56 |
| 28 | 5月29日(日) | 田代小学校 | 42 |
| 29 | 6月 1日(水) | 立神小学校 | 45 |
| 30 | 6月 2日(木) | 深田小学校 | 21 |
| 31 | 6月 9日(木) | 岩川小学校 | 78 |
| 32 | 6月10日(金) | 永化女子商業高等学校 | 9 |
| 33 | 6日15日(水) | 丹波小学校6年生 | 92 |
| 34 | 6月15日(水) | 岩北小学校 | 16 |
| 35 | 6月16日(木) | 東京工業高校 | 44 |
| 36 | 6月17日(金) | 丹波小学校6年生 | 31 |
| 37 | 6月21日(火) | 白百合幼稚園 | 20 |
| 38 | 6月23日(木) | 西原小学校 | 106 |

| | | 団体名 | 人数 |
|----|-----------|--------------|-----|
| 39 | 6月30日(木) | 丹波小学校 | 87 |
| 40 | 7月23日(土) | 峰山小学校 | 22 |
| 41 | 9月 8日(木) | 大野東中学校 | 35 |
| 42 | 9月 8日(木) | 春日中学校 | 18 |
| 43 | 9月 8日(木) | 嬉野中学校 | 47 |
| 44 | 9月13日(火) | 春日東中学校 | 38 |
| 45 | 9月14日 (水) | 二日市中学校 | 22 |
| 46 | 9月21日 (水) | 大利中学校2年生 | 2 |
| 47 | 9月23日(木) | 南指宿中学校 | 8 |
| 48 | 9月23日(金) | 学業院中学校2年生 | 35 |
| 49 | 9月27日 (火) | 那河川南中学校 | 42 |
| 50 | 10月6日(木) | 丸野小学校 | 29 |
| 51 | 10月 7日(金) | 柳田小学校6年生 | 64 |
| 52 | 10月11日(火) | 南指宿中学校2年生 | 18 |
| 53 | 10月12日(水) | 志布志小学校 | 65 |
| 54 | 10月14日(金) | 沖水小学校 | 183 |
| 55 | 10月14日(金) | 魚見小学校1・2年生 | 38 |
| 56 | 10月19日(水) | 都農小学校 | 56 |
| 57 | 10月21日(金) | 高崎小学校 | 50 |
| 58 | 10月21日(金) | 都農南小学校 | 56 |
| 59 | 10月22日(土) | ラサール中学校2年生 | 168 |
| 60 | 10月26日(水) | 大畑小学校 | 24 |
| 61 | 10月28日(金) | 安久小学校 | 52 |
| 62 | 10月28日(金) | 上長飯小学校 | 131 |
| 63 | 10月28日(金) | 東間小学校 | 72 |
| 64 | 10月28日(金) | 宮脇小学校 I ・2年生 | 39 |
| 65 | 10月28日(金) | 生見小学校2年生 | 9 |
| 66 | 10月28日(金) | 喜入小学校 I ・2年生 | 105 |
| 67 | 11月 1日(火) | 高原小学校 | 67 |
| 68 | 11月 2日(水) | 笠祗小学校5・6年生 | 10 |
| 69 | 11月 3日(木) | 都立大学附属高等学校 | 38 |
| 70 | 11月11日(金) | 中名小学校 | 46 |
| 71 | 11月15日(火) | 大成小学校6年生 | 40 |
| 72 | 11月19日(火) | 柳田小学校2年生 | 26 |
| 73 | 12月16日(金) | 鶴丸高校 | 38 |
| 74 | 1月28日(土) | 田代小学校6年生 | 31 |
| 75 | 1月30日(火) | 指宿高等学校 | 66 |





(8) 移動博物館推進事業「博物館がやってきた」

a. 目 的

鹿児島県立博物館と市教育委員会が連携して郷土の自然への理解を深め、「科学する心」や「自然と共生する心」を 育むため、星空観察会や学芸員活動等の自然体験活動を開催し、さらに鹿児島や当地域の自然を紹介する展示活動を 実施する。

- b. 主 催 鹿児島県立博物館,指宿市教育委員会
- c. 期 間 平成17年11月10日(木)~13日(日)
- d. 内容等

1標本等展示:国内外の昆虫や植物,動物の標本や剥製を展示。触れる化石や児童・生徒の理科研究等も展示。 展示資料合計 約 5.600 点。

·期 間:11月10日(木)~13日(日)

- ■楽しい理科実験:液体窒素を使った「とほうもなく冷たい世界」の実験
 - ·日 時:11月10日(木)·11日(金) 1日6·7回
- ■楽しい理科実験(工作):キャップゴマ,カタカタ車,プラとんぼ,ガリガリプロペラ,ゆったり一輪車作り工作で,身近な道具を材料としてリサイクルして行う。
 - · 日 時:11月12日(土)·13日(日) 1日5回
- ■星空観察会: 曇天のため、月や火星の観察は不可、スペクタルスコープ作りを行う、
 - ・日 時:11月10(木) 午後6時~午後8時
- ■あなたもまちの学芸員(岩石班): 揖宿郡内の池田湖, 開聞岳周辺を巡り指宿特有の火山地形の見学と, 開聞岳の 火山灰で被覆された植物化石や伏目海岸で鉱物を探す.
 - · 日 時:11月12(土) 午前10時~午後3時30分
- ■あなたもまちの学芸員(昆虫班):揖宿郡内を飛んでいる迷蝶のアサギマダラのマーキングを行う。
 - · 日 時:11月13(日) 午前10時~午後3時30分
- ■あなたもまちの学芸員(植物班):秋の植物観察と標本作成を行う。
 - · 日 時:11月13(日) 午前10時~午後3時30分
- ■郷土の自然紹介授業(出前授業):池田小学校の身近にある阿多カルデラ壁や池田湖を教材として、火山地形や火山の仕組みについて学ぶ。
 - ・会 場:池田小学校
 - ・日 時:11月10(木) 午後2時30分から
- e. 総参加者数 のべ7,291人







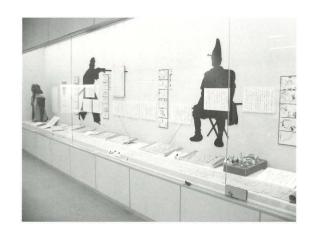


(9) 平成 17 年度企画展指宿歴史物語『いぶすき国盗り物語』

a. 主旨

中世は、現在の日本の基礎ができあがっていく過程で様々な戦や動乱などが繰り返された激動の時代である。今回は「今に残る中世の地名」「武士の時代」「人々の祈り」「中世の海外交易」「考古遺物からみた中世」の5つのテーマで、およそ600年ぶりに里帰りする「指宿文書」をはじめ、中世の名刀や外国人が記したいぶすきを含めて、館に所蔵する資料や県内の資料を交えながら中世の生活の様子を紹介したい。また、難解な古文書や複雑な歴史的事象については、4こまマンガを交えて紹介し、さらに理解を促したい。

- b. 平成17年12月3日(土)~3月26日(日)
- c. 展示テーマの流れと概要
- ・導入展示 今に残る中世の地名:「指宿」の地名がいつごろから使われ始めたのか。また、「湯豊宿」はいぶ すきの地名の由来なのかなどを、「湯豊宿」の板碑や「指宿文書」などを使って解説する。
- ・武士の時代 中世は武士の時代の幕開けであり、指宿でもさまざまな武士が土地をめぐり覇権を争った。その 実態を説明するために「指宿文書」を鍵として用いる他、山城についても触れる。
- ・人々の祈り 中世は仏教が民衆の宗教として深く浸透した時代で、今日もその名残が「仏像」や「板碑」として 南薩の各地に残っている。このような資料を中心として、中世の人々の宗教観に触れる。
- ・中世の海外交易 中世は、海外、特に中国との交易が盛んに行われた時代である。交易の拠点となった港町が遺跡 として発見された例や、発見された交易品を紹介する。また、フランシスコ・ザビエルの来日を促したジョルジェ・アルバレスが半年間山川に滞在し、日本の様子(特に山川の様子)を「日本報告」という形で報告している。「日本報告」に細かく記された当時の生活の様子を紹介する。
- ・考古遺物から見た中世 指宿市南迫田遺跡をはじめとして、県内の中世の集落遺跡などを紹介し、考古資料が示す 具体的な中世の姿に迫る。
 - d. 総参加者数 のべ 1,291人





2. 後援・共催・協賛事業の部

(10) 時遊館COCCOはしむれ友の会活動支援

友の会の活動は下記のとおりである.

6月5日 総会・ろくろ体験

7月24日 ふるさと学びの講座参加

8月10日 発掘調査体験(南摺ヶ浜遺跡)

9月4日 そば植え

10月16日 ふるさと学びの講座参加

10月23日 秋の研修視察(坊津町)

11月20日 鹿児島国際大学博物館見学

11月27日 急須作り・そば刈り

11月27日 ふるさと学びの講座参加

1月15日 そば打ち

2月11日・13日 味噌作り体験参加

3月12日 史跡めぐり「江戸時代のいぶすきを旅する」

3月19日 春の野草を食べる会

3月20日 原口泉先生「江戸時代のいぶすきを旅する」講演会

3月26日 春の研修視察(池田湖・山川・開聞)

福祉「ふれあいデー」の史跡案内ボランティア(のべ31回)

7月:2日・8日・9日・12日・13日・14日・16日・21日・23日・26日・27日・28日・29日・30日

8月:2日・3日・4日・5日・10日・11日・16日・18日・20日・23日・26日・27日

9月:1日・3日,1月:31日,2月:10日・18日



指宿出身,もしくは在住の陶芸,彫金,家具,草木染,住宅模型,ポップアート,ガーデニングなど「ものづくり」にこだわる14人が,作品を通じて,「もの」と過ごす暮らしの豊かさを提案した作品展、約120点の作品が展示された。

a. 日時 平成17年6月22日(水)~26日(日)

b. 場所 2階特別展示室









3. 発掘調査の部

(12) 広域営農団地農道整備事業に伴う幸屋遺跡確認調査概要

a. 遺跡名:幸屋遺跡

b. 所在地:指宿市西方小字幸屋

c. 期 間: 平成 17年7月6日から8月22日まで

d. 概要

幸屋遺跡は、縄文土器などが表面採集されることから遺跡として周知化された。 また、鬼界カルデラ火山性噴出物である幸屋火砕流の発見地・名称地としても知られている。 広域営農団地農道整備事業に伴い遺跡部分が掘削されることとなったため、指宿市と鹿児島耕地事務所と委託契約を締結して、指宿市教育委員会により遺物包含層の有無と広がりの確認を目的とした確認調査を実施した。

確認調査は、調査対象地の約2,000㎡内に3ヶ所のトレンチを設定して行った。

調査成果

記すべき点としては、①池田カルデラ噴出物の尾下スコリアが、池崎火山灰を突き抜け、黒色層上面でめり込んでいる状況で確認された。②鬼界カルデラ噴出物の幸屋火砕流による倒木の横転痕が確認された。③サツマ火山灰層の層厚が指宿市内の遺跡より厚く約60cmもあり、本来の堆積状況が垣間見ることができた。④サツマ火山灰の下位で、泥炭層と水成堆積層が認められたことから、この周辺にはかつて沼や湿地帯が存在していたことが確認された。このこのことより、当時の自然環境復元の貴重な資料となる。⑤池崎火山灰層中と水成堆積層中に食物遺体が確認され、当時の植生復元において貴重な資料となる。確認調査の結果、水成堆積層や池崎火山灰層中から植物遺体などが出土したものの、土器片や石器類は出土しなかった。明確な遺物包含層は確認できなかった。よって、広域農道新設に伴う幸屋遺跡内の一部掘削については、影響がないものと判断された。





(13) 広域営農団地農道整備事業に伴う西多羅ヶ迫遺跡発掘調査

a. 実施期間: 平成 18 年 1 月 25 日~平成 18 年 3 月 30 日

b. 所 在 地:指宿市大字小牧字西多羅ヶ迫981他

c. 調查面積: 2,186 ㎡

d. 調査経緯

西多羅ヶ迫遺跡は、平成 11 年度に県文化財課の分布調査によって遺跡が周知化された。同年に指宿市教育委員会が 広域農道の予定地内で確認調査を実施した結果、縄文時代と後期旧石器時代に帰属する遺構を確認。鹿児島耕地事務 所・県文化財課・市耕地課・市教委の協議をうけ、平成 14・15 年度に発掘調査を市教委が発掘調査を実施した。

平成 16 年度は、予算編成の都合上調査を実施していない。平成 17 年度は、幸屋遺跡の本調査の必要がなかったため、西多羅ヶ迫遺跡の本調査を一部実施することとなった。

e. 調査概要

西多羅ヶ迫遺跡の調査は、平成 15 年度以降実施していないため、現地は平成 16 年・17 年の台風などによる倒木があるほか、雑草が生え、表面を覆っていたビニールシートが劣化した状況にある。

17 年度の調査では、まず調査区の復旧を実施、また、北側調査区が土砂に埋もれているため、これを除去し第5層の上面を露出させる作業を実施した。

(14) 敷領遺跡確認調査

a. 実施期間: 平成 17年8月25日~平成17年9月30日

b. 所 在 地:十町小字敷領他

c. 調查面積: 100 ㎡

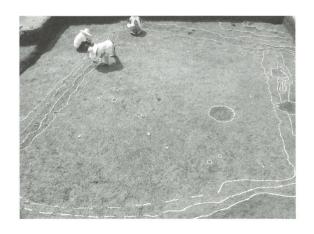
d. 調査概要

平成 16 年度に引き続き、お茶の水女子大学鷹野光行教授を研究代表者とする平成 17 年度科学研究費補助金「特定領域研究」『わが国の火山噴火罹災地における生活・文化環境の復元一九州を中心に一』の研究プロジェクトと共同で発掘調査を進めた。

平成 16 年度に実施した地中レーダ探査で、約 2,300 ㎡について、西暦 874 年の開聞岳噴火で埋没した水田の状況を把握することができたため、その成果に基づき、市教委、大学サイドでそれぞれトレンチを設定し確認調査を実施した。その結果、実際に地中レーダ探査データに対応する水田を検出し、地中レーダ探査の精度を追認することができた。

そのほか、周知の遺跡地内における個人住宅等の建設に伴い、年間16箇所の工事立会いを実施した。





4. 文化財保護管理の部

- (15) 国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡買上事業
 - a. 目的 平成7年度に国指定史跡に追加指定された指定地の追加購入を行い、史跡の保存と活用に資する。
- b. 内容 追加指定地 18,636,59 mのうち, 258.1 mを購入した。文化庁と鹿児島県の補助事業である。

(16) 指定文化財管理

a. 文化財防火デー

平成 18 年 1 月 26 日, 指宿市小牧の豊玉媛神社で防火訓練を実施し、職員他、地域住民 40 名の参加があった。

5. 刊行物の部

(17) 平成 17 年度企画展指宿歴史物語『いぶすき国盗り物語 『展示図録刊行

(18) 市内遺跡範囲確認調查発掘調查報告書刊行

平成 17 年度に実施した敷領遺跡の確認調査に伴い報告書を刊行,遺跡の記録保存を行った。



平成18年度年報編

各事業の実績と展開

平成 18 年度に実施した主な事業は以下の通りである。以下、その概要を記す。

1. 博物館事業の部

- (1) ゴールデンウィークイベント「わくわく体験学習フェスタ」
- ■勾玉作り、ペーパークラフト、あんぎん編み体験、絵付け体験
 - a. 日時 平成 18年4月29日~5月7日 10:30~15:00
 - b. 場所 時遊館COCCOはしむれ1階講堂, 前庭
 - c. 参加 81名

■親子で工作

- a. 日時 平成 18年4月29日,30日,5月3日~7日 10:30~15:00
- b. 場所 時遊館COCCOはしむれ2階ロビー
- c. 参加 47名
- ■ミニ企画展「イニシエノイロドリ」
 - a. 日時 平成 18年4月29日~5月7日
 - b. 場所 時遊館COCCOはしむれ2階特別展示室
 - c. 内容 琴鳴窯の四元誠氏の協力をいただき、日本各地の 彩色土器を復元し展示した。





(2) 学びのふるさと講座 歴史探訪(全6回)

a. 目的 鹿児島国際大学と連携し、生涯学習の一環として全 10 回の講座を実施、うち6講座を博物館で開催した。 講座生を募集して参加を募るとともに、一般聴講者も参加できるものとした。

b. 実施状況

| | 開催日 | テーマ | 講師 | 対象 | 曜日 | 時間 | 参加者 |
|---|--------|---|--------|----|----|-------------|-----|
| 1 | 6月17日 | いきいき生きる秘訣 いのちを育み魂の成長を助ける「波動療法」への誘い1 | 上川路紀久男 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 58 |
| 2 | 6月24日 | いきいき生きる秘訣 いのちを育み魂の成長 を助ける「波動療法」への誘い2 | 上川路紀久男 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 22 |
| 3 | 9月2日 | 発達段階をふまえたコミュニケーション | 切手純孝 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 34 |
| 4 | 10月7日 | 渚に立って環境問題を考える | 鮫島正道 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 26 |
| 5 | 11月11日 | 日中国文化ー何故力カア天下が多いかー | 康上賢淑 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 34 |
| 6 | 12月9日 | 島津・今和泉家の歴史 | 三木 靖 | 一般 | 土 | 13:30~15:00 | 21 |

(3) 文化体験プログラム事業

a. 目的 ふるさとの自然や文化財等を活用し、体験学習を実施することで、郷土教育を行うとともに青少年活動の充実を図り、健全な青少年を育成する。本事業は、平成 15 年度より、文部科学省の主催する地域教育力再生プランの一環として実施している。

| | | | 体験学習名 | 内 容 | 開催回数 | 実施場所 | 期日 |
|-----|----------------|---|-------------------------------------|---|------|--------------|------------------|
| | | | 1 万年前の調理法に挑 戦!「古代石蒸し調理体 験」 | 旧石器時代の出土品から当時 の生活・文化を学習し,当時 行われていた石蒸し調理法で 古代食を再現する。 | 1 | 時遊館COCCOはしむれ | 5月27日 (土) |
| (1) | 考古学体験 プログラム | | 「遺跡を発掘するぞ!-め ざせ世紀の大発見-」 | 敷領遺跡での体験発掘調査。 地層や火山灰についても学習 する。 | 1 | 敷領遺跡 | 7月21日 (金) |
| | | 3 | 人類初の化学変化だ! 「びっくり実験!縄文土 器作り」 | 地元の粘土で縄文土器を製作。粘土の採集,精製から製作,野焼きまでを全3回の工程で行い,焼き物の原点である土器について学習する。 | 3 | 時遊館COCCOはしむれ | 9月9日,10日, 23日 |
| | | 1 | あんぎん編みでこんなの できたよ。「思い出の写 真かざり」 | 縄文時代からある原始的な編み物の原理について学習しながら、オリジナルの写真飾りを製作する。 | 1 | 時遊館COCCOはしむれ | 11月26日 (日) |
| (2) | 古代アート プログラム | | 古代を伝統文化で表現! 「型絵染め」体験 | 古代をテーマにした「型絵染め」体験。 文化財を素材に、伝統技法を活かした和紙の型絵染めを行い、オリジナルの葉書を作成する。 | 1 | 時遊館COCCOはしむれ | 6月11日 (日) |
| | | 3 | 創作アート「森の香りの もの作り」 | 日本伝統の木の文化をテーマ に,文化を育んだ木を素材と した創作活動を行う。 | 1 | 時遊館COCCOはしむれ | 10月8日 (日) |

| | | | 体験学習名 | 内 容 | 開催回数 | 実施場所 | 備考 |
|-----|------------|---|-----------------------------------|---|------|-------------------|----------------|
| | 古代人に学ぶ自然を考 | 1 | 石器の素材を 探せ!古代人 が利用した岩 石収集 | 人類の道具の原点である石器について、その素材となった岩石にテーマをしぼり,指宿市内で収集・標本化しながら,出土品と合せて,石器の種類や機能について学習する。 | 1 | 時遊館COCCOはしむれ 他 | 8月 |
| (3) | えるプログラム | 2 | 古代人も見上げていた「星座と遺跡の秘密」 | 古代遺跡に残る壁画,世界遺産でもある打かの地上絵などは星座や星の運航との関連が指摘されている。古代人が利用した星座,星の運航について学習し,実際に星空観察を行う。 | 2 | 時遊館COCCOはしむれ | 8月、2月 |
| (4) | ふるさと文化再発見プ | 1 | 文化財再発見の旅「こんなにあった歴史の証」 | 平成18年,指宿市,山川町, 開聞町が合併し,新指宿市が発 足した。現在市内には,国指定 3件,県指定6件,市指定53件 の計62件の指定文化財が所在 する。市内12校区ごとに史跡 探訪を開催し,地域の歴史・文 化財に触れ郷土教育の充実を図 る。 | 12 | 市内各校区 | 各学期1回 (全3回) |
| | ログラム | 2 | 地域の伝統に 学ぶ「生活文 化体験」 | 市内12校区ごとに、校区公民館を会場に地元の生活文化に密着した体験事業(わらじ作り体験,門松作り体験、伝統的に行われている年中行事体験)を実施し、地元に残る生活文化への興味関心、理解を深める機会とする。 | 24 | 市内各校区 | (主3四) |
| | • | | 合計開催 | 回数 | 47 | | |

b. 実施状況

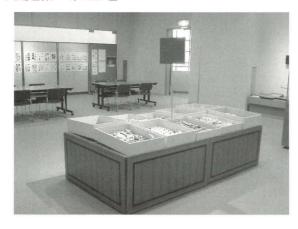








- (4) ミニ企画展『海の宝石いぶすきの貝と知林ヶ島の昆虫たち』
- a. 目的 貝の名付け会の開催に合わせて、標本展示を行うことで児童・生徒の学習の一助となる。今年度は、知林ヶ島の昆虫標本も合わせて展示した。
 - b. 開催期間 平成 18 年8月24日(火)~9月30日(金)
 - c. 開催場所 2階特別展示室
 - d. いぶすき近海の貝、奄美大島近海の貝、橋牟礼川遺跡の貝塚(平安時代)、市来貝塚の貝(縄文時代)など 932 種約 1,200 点を展示
 - e. 入場者数 1,460 名





(5) いぶすきシルバー美術展

鹿児島県内在住の 60 歳以上の方々の絵画作品を公募し、一堂に展示するユニークな美術展である。創作活動の一般公開の場として、また、芸術文化の振興に寄与することを目的として平成2年度から開催しており、今年度で第 17 回目を迎える。

- a. 日時 平成 18 年8月 10 日(日)~24 日(日)
- b. 主催 指宿市・指宿市教育委員会・指宿市文化協会
- c. 出展作品数 215点(市内44点·市外171点)
- d. 出展者数 154名(市内28名·市外126名)
- e. 入場者数 3,200 名

(6) 博物館実習生の受入

平成8年度より博物館実習生の受入を実施している。平成18年度は、1名の実習生を受け入れた。

- a. 期 間 平成18年8月1日(金)~8月10日(日)
- b. 実習生 鹿児島大学 1 名
- c. 実習概要 発掘調査,企画展立案,博物館資料整理,ワークシート作成等.

(7) 学習支援活動

来館者に対する学習支援活動の他, 職場体験学習の受入, 市内各学校の総合的な学習の時間の支援等を実施している。 実施状況は, 次のとおりである.

職場体験学習 北指宿中学校 平成 18年5月16日(火), 17日(水)3名

南指宿中学校 平成 18年9月27日(水), 28日(金)7名, 平成 19年2月21日~23日 4名 頴娃高校 平成 18年9月26日(火)4名

学習支援(館内案内・勾玉作り・あんぎん編み)

| | В | 団体名 | 人数 |
|----|-----------|--------------|-----|
| 1 | 5月13日(木) | 久志小学校1年生~4年生 | 18 |
| 2 | 5月20日(木) | 都農小学校 | 59 |
| 3 | 5月20日(木) | 東小学校 | 87 |
| 4 | 5月21日(金) | 潮見小学校 | 131 |
| 5 | 5月21日(金) | 高城小学校 | 39 |
| 6 | 5月26日 (水) | 財部小学校 | 68 |
| 7 | 5月27日 (木) | 木上小学校 | 30 |
| 8 | 6月 3日(木) | 西原小学校 | 118 |
| 9 | 6月 8日(火) | 北指宿中学校2年生 | 4 |
| 10 | 6月 9日(水) | 北指宿中学校2年生 | 4 |
| 11 | 6月 9日(水) | 永化女子高校 | 6 |
| 12 | 6月12日(土) | 市内児童生徒 | 31 |
| 13 | 6月22日 (火) | 原田小学校 | 21 |
| 14 | 6月29日 (火) | 白百合幼稚園 | 17 |
| 15 | 7月 2日(金) | 丹波小学校6年生 | 104 |
| 16 | 8月10日(火) | 槌橋保育園学童保育 | 23 |
| 17 | 8月17日 (火) | 利永小学校 | 23 |
| 18 | 8月19日 (木) | 池田保育園学童保育 | 9 |
| 19 | 8月28日 (土) | 光明禅寺保育園学童保育 | 16 |
| 20 | 9月 9日(木) | 大野東中学校2年生 | 28 |
| 21 | 9月10日(金) | 大野東中学校2年生 | 30 |
| 22 | 9月10日(金) | 大野東中学校2年生 | 40 |
| 23 | 9月12日(日) | 大利中学校 | 39 |
| 24 | 9月13日 (土) | 市内児童生徒 | 31 |
| 25 | 9月14日 (火) | 春日西中学校 | 73 |
| 26 | 9月15日 (水) | 平野中学校2年生 | 74 |
| 27 | 9月15日 (水) | 平野中学校2年生 | 38 |

| | В | 団体名 | 人数 |
|----|------------|--------------|-----|
| 28 | 9月17日(金) | 春日中学校 | 38 |
| 29 | 9月23日(木) | 二日市中学校 | 52 |
| 30 | 9月28日 (火) | 南指宿中学校 | 3 |
| 31 | 10月 7日(木) | 丸野小学校 | 30 |
| 32 | 10月 8日(金) | 柳田小学校6年生 | 57 |
| 33 | 10日21日(木) | 三股町立三校合同小学校 | 45 |
| 34 | 10月21日(木) | 乙房小学校 | 24 |
| 35 | 10月22日(金) | 高崎小学校 | 63 |
| 36 | 10月22日(金) | 生見小学校 | 20 |
| 37 | 10月26日(火) | 伊関小学校 | 11 |
| 38 | 10月27日 (水) | 国上小学校 | 20 |
| 39 | 10月28日(木) | 木城小学校 | 71 |
| 40 | 10月28日(木) | 東間小学校 | 78 |
| 41 | 10月28日(木) | 免田小学校 | 83 |
| 42 | 10月29日(金) | 上長野小学校 | 129 |
| 43 | 10月29日(金) | 青戸小学校 | 39 |
| 44 | 11月 4日(木) | 志和池小学校 | 48 |
| 45 | 11月17日(水) | 春日東中学校 | 44 |
| 46 | 11月17日(水) | 都農南小学校 | 47 |
| 47 | 12月 5日(日) | いきいき山川っ子 | 63 |
| 48 | 12月17日(金) | 鶴丸高校 | 28 |
| 49 | 2月 2日(水) | 指宿商業高校 | 2 |
| 50 | 2月 3日(木) | 指宿商業高校 | 2 |
| 51 | 2月 4日(金) | 指宿商業高校 | 2 |
| 52 | 2月18日(金) | 指宿養護学校 | 24 |
| 53 | 2月26日(土) | 開聞町わくわく土曜体験館 | 24 |





(8)企画展『大好き!指宿展-新しい私たちのまちの歴史-』

a. 主旨

指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれでは、平成18年度の企画展として、合併によって誕生した新・指宿市の文化財を中心にしながら、指宿の歴史を概観し、自分たちの町の歴史に関する市民の興味関心を喚起する。

- b. 開催期間 平成 18年2月4日(日)~3月25日(日)
- c. 開催場所 2階特別展示室
- d. 展示テーマの流れと概要
 - ・指宿市の成り立ち

現在の指宿市が出来上がるまでの大まかな流れを、 図表で解説する、

・特徴ある指宿の自然

火山と自然に恵まれた指宿市を解説する.

・大昔の指宿

原始・古代の指宿を遺跡から概観する。特に、黎明館が所蔵する山川成川の成川遺跡の出土遺物を中心に展示し、成川遺跡とはどんな遺跡かを解説し、鹿児島の歴史に欠かせない内容であることを理解してもらう。

・武士の時代の指宿

中世は武士の時代の幕開けであり、いぶすきでさまざまな武士が土地をめぐり覇権を争った。その実態から、中世とはどのような時代であったのかをわかりやすく説明する。中世には神社が大きな力を持ち、枚聞神社には当時を伝える様々な史料が残されている。また、中世は祈りの時代と言われるほど仏教が卓越した時代でもあり、市内にはさまざまな仏教関係の文化財が所在しているため、併せて紹介する。

・指宿の江戸時代

平成 20 年に NHK 大河ドラマで篤姫が放映されることが決定しており、江戸時代には特に興味関心が高まっている。ここでは、江戸時代の指宿がどのような町であったのかを絵図で紹介するとともに、島津斉興・島津斉彬・濵﨑太平次など指宿を支えた人々を紹介する。

・明治の指宿

市内の文化財にとって大きな転換点となる明治時代。ここでは、揖宿神社に残された仁王像の手や市内各所に残る破壊された仏教遺物を用い、廃仏毀釈を紹介する。

・ちょっと昔そして未来の指宿

ちょっと昔の指宿を紹介するために、開聞の十五夜綱引きの写真・製塩業の紹介、山川のカラカラ車やカツ オ模型などを紹介。

未来の指宿のコーナーでは、「ぼくたちわたしたちの未来の指宿」と題した絵画作文工作などの児童・生徒作品をすべて展示。



がばらしい自然 本本

2. 後援・共催・協賛事業の部

(9) 時遊館COCCOはしむれ友の会活動支援 平成 18 年度の活動は下記のとおりである。

6月 4日(土) ろくろ体験・総会

9月 3日(土) そばつくり体験(種まき)

9月23日(金)・25日(日) みそ作り

10月22日(土) 秋の見学研修(薩摩川内市予定)

11月26日(土) そばつくり体験(刈り入れ)

12月10日(土) そばつくり体験(そばの実とり)

2月17日(土) そば打ち体験

2月25日(土) 史跡探訪 新指宿市内の史跡の見学

3月17日(土) 春の野草を食べる会



(10) 平成 18 年度科学研究費補助金研究「わが国の火山噴火罹災地における生活・文化環境の復元」プロジェクト

お茶の水女子大学鷹野光行教授を研究代表者とする表記の研究に研究協力者として参加した。17年度に引き続き、敷領遺跡地内で、奈良・平安時代の遺構、また、埋没古墳の有無を確認する地下レーダ探査が実施された。また、山川・開聞地区の開聞岳火山灰の堆積状況を把握するため、13地点 18ポイントの箇所でボーリング調査を実施した他、開聞神社駐車場においても地下レーダ探査を実施した。なお、調査に係る費用は全額科学研究費より支出された。

地下レーダ探査

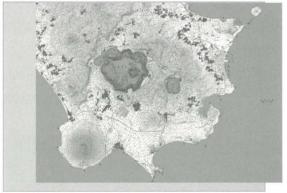
a. 実施期間 平成 18年7月14日~平成18年3月22日

b. 実施場所 敷領遺跡・開聞神社駐車場・慶固遺跡

ボーリング調査

a. 実施期間 平成 18年8月14日~平成18年9月22日

b. 実施場所 敷領遺跡(4箇所)・山川地区(4箇所)開聞地区(5箇所)





(11) 時遊館COCCOはしむれ開館 10 周年記念フォーラム「火山灰で埋もれた都市とムラ」

「わが国の火山噴火罹災地における生活・文化環境の復元」プロジェクトの一環として、標記フォーラムを開催し、国内外の火山災害遺跡の報告がなされた。

- a. 日時 平成18年11月26日(日)13:00~16:30
- b. 会場 時遊館COCCOはしむれ1階講堂
- c. タイトルと講演者

| 演題 | 講演者 | | |
|------------------------------|---------------------|--|--|
| イタリアの火山と遺跡 | 青柳正規(国立西洋美術館館長) | | |
| 群馬県における火山災害と遺跡ー天明三年の浅間山噴火に伴う | 小野和之(群馬県埋蔵文化財調査事業団) | | |
| 泥流に埋没した上福島中町遺跡の調査から一 | | | |
| 火山噴火と戦った古代隼人のムラ | 中摩浩太郎(指宿市教育委員会) | | |
| 火山噴火で壊滅したジャワの古代国家 | 新田栄治(鹿児島大学教授) | | |

d. 参加者 106名





(12) 平成 18 年度鹿児島大学附属図書館貴重資料公開「描かれた自然 江戸の植物図」

鹿児島大学が所蔵する玉里文庫を公開する事業が開催された。今回の展示では、江戸時代に盛んになった、薬用植物や鉱物を研究する「本草学(ほんぞうがく)」のために著された書籍や植物画の展示、講演会が行われた。

展示会にあわせて、講演会も実施された。

- a. 日時 平成 18年11月17日(金)~19日(日)
- b. 会場 時遊館COCCOはしむれ2階特別展示室
- c. 参加者 391名





(13) 龍まんじ (バロン吉元) 里帰り展「天男がいっぱい」

指宿出身の画家龍まんじ氏の個展を開催した。龍氏は、バロン吉元の名前で漫画家としても活躍され、『柔侠伝』シリーズなど広いジャンルで活躍中の作家である。今回は、「キャラクター絵画」をはじめ、漫画の原画等、貴重な作品の数々が展示された。

- a. 日時 平成 18年11月1日(水)~14日(火)
- b. 会場 時遊館COCCOはしむれ2階特別展示室
- c. 参加者 1,137名





3. 発掘調査の部

(14) 市内遺跡確認調査

平成 17 年度に引き続き、地中レーダ探査のデータを基に敷領遺跡確認調査を実施した。また、新番所後遺跡地内の NTT ドコモ携帯電話電波塔建設予定地について試掘調査を行い遺跡の有無を確認した。

敷領遺跡確認調査

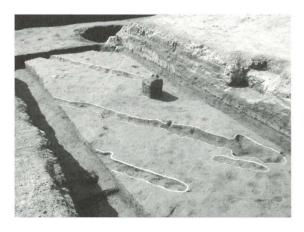
a. 実施期間:平成 18 年 10 月 4 日~平成 18 年 11 月 30 日 b. 所 在 地:十町小字敷領他

c. 調査面積: 100 ㎡

d. 調査概要

奈良~平安時代の包含層から数点の土師器片が出土した。また、青コラ上面において、本包含層中から掘削された溝状遺構を検出した。畝たてに伴う掘削痕跡と考えられ、かつて、畠が営まれていたものと推定される。トレンチ南側では、道跡と考えられる硬化面、ピット3基を検出した。古墳時代においても遺物の出土があり、付近に同時期の集落が存在する可能性が示された。





(15) 新番所後遺跡発掘調査

a. 実施期間: 平成18年5月15日~平成18年6月26日 b. 所在 地: 十二町42224番地他

c. 調查面積: 750 ㎡

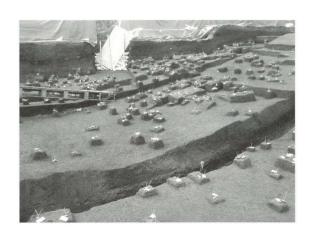
d. 調査概要

㈱ニシムタの新店舗建設に伴い、平成 18 年2月~3月に確認調査を実施したところ工事が及ぶ一部の範囲について遺跡の存在が確認されたため、本調査を実施した。

発掘調査の結果、丘陵部に入り込んだ U 字の谷地形が埋没しており、これが南から北方向に伸びていた。谷の南西側丘陵上から弥生時代中期の土器が大量に廃棄された状況が見られた。また、土器廃棄以降で弥生中期に属するピット列を検出した。これは、谷の南西側の丘陵方向に向かい列をなし続くものなどがある。

また, 古墳時代に帰属する竪穴住居一軒を検出した.





(16) 慶固遺跡発掘調査

c. 調査面積: 480 ㎡

d. 調査概要

土取り作業により露出した西暦 874 の開聞岳噴火で埋没した畠跡遺跡を偶然発見し緊急調査を行った. 慶固遺跡は、開聞岳から直線距離でわずか5 kmしか離れておらず、これまで見つかっている橋牟礼川遺跡や敷領遺跡よりも直接的に噴火の大きなダメージを受けたことが想定される。今回の畠の発見は、付近にそれを営んだ人々の集落の存在を示唆しており、橋牟礼川遺跡や敷領遺跡に比べ、はるかに早いスピードで埋没したものと思われる。噴火口により近いエリアで、どのような災害が発生したのか、災害の程度はどうだったのか、など今後の発見・調査が進むことで平安時代の開聞岳噴火について、その災害の詳細を知る大きな手がかりを得られるものと期待される。





(17) 広域営農団地農道整備事業に伴う西多羅ヶ迫遺跡発掘調査

a. 実施期間: 平成 18 年 5 月 25 日~平成 19 年 3 月 30 日

b. 所 在 地:指宿市大字小牧字两多羅ヶ迫981他

c. 調査面積: 2,186 ㎡

d. 調査概要

西多羅ヶ迫遺跡は、前年度に引き続き発掘調査が実施され、主に姶良カルデラから噴出した大隅降下軽石層 (第9層:約2万4千年前)の下位層である第10層の調査が行われた。第10層からは、少なくとも2時期の 後期旧石器時代の石器などが出土した。

第10層の上部からは、丁寧に加工されたナイフ形石器や台形石器が出土した。また、第10層の下部からは、 薄い剥片を切断しただけで加工がほとんどされていない石器やクサビ形石器などが出土した。特に、石器の材料 となるメノウや玉髄を含む頭大の大きさの凝灰岩や、それを打ち割るハンマー、台石などが多く出土した。この ことから、遺跡の近くにある石材の原産地から礫が持ち運ばれ、石器の材料となる質の良い石材を獲得するため の作業場としても利用されていたことが推測できる。





(18) 丹波小学校改築事業に伴う南丹波遺跡試掘調査

a. 実施期間: 平成 18年11月14日~平成18年11月25日

b. 所 在 地:指宿市十二町

c. 調查面積: 150 ㎡

d. 調査概要

8箇所について、試掘トレンチを設定し調査した結果、奈良~平安時代、古墳時代、弥生時代の包含層を確認、 古墳時代の遺物が出土した他、ピット3基が確認された。



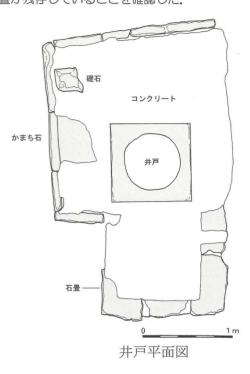


4. 文化財保護管理の部

(19) 指定文化財管理

a. 文化財保護業務

市指定文化財の今和泉島津家墓地について、測量調査と風化の著しい墓石2基について保存処理を行った。これについては、紀要編で詳述する。また、今和泉小学校敷地内に残る今和泉島津家別邸の井戸について、確認調査を実施、周辺に石畳が残存していることを確認した。







b. 文化財案内看板作成

第8代濵崎太平次正房について関連箇所への案内も含めて文化財看板を作成し設置した。

c. 文化財防火デー

平成 19 年 1 月 26 日, 国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡, 及び時遊館COCCOはしむれ, 開聞神社で防火訓練を実施し, 職員他, 地域住民 40 名の参加があった.





5. 刊行物の部

- (20)『大好き!指宿展-新しい私たちの町の歴史-』展示図録刊行
- (21) 平成18年度市内遺跡範囲確認調査報告書刊行 敷領遺跡, 慶固遺跡の確認調査報告書を刊行, 遺跡の記録保存を行った.
- (22) 新番所後遺跡発掘調査報告書刊行

研究紀要編

温湯地区の地層保存処理について

社会教育課文化財係 鎌田洋昭

a. 所在地:市内東方の玉利地区から温湯地区にかけての農道法面

b. 保存地層:褶曲層と共役断層の一部(約53,000年前の清見岳から噴出した火山灰やレキなど)

c. 保存範囲: 4m×10m

d. 保存処理工事発注者: 鹿児島耕地事務所

e. 保存処理指導者:指宿市教育委員会

f、保存処理工事受注者

| 保存処理工事内容 | 業者名 | 住 所 |
|------------|------------|-------------------|
| 地層保存処理工事 | 株式会社 葵文化 | 熊本市春日1丁目8-14-1303 |
| 陶板製説明板設置工事 | 株式会社 ステップス | 福岡市南区清水 3-21-3 |
| モルタル吹付工事 | 今別府産業株式会社 | 鹿児島市新栄町 15-7 |

g. 保存地層について

保存処理が検討された範囲は、池田カルデラの東側外輪山の丘陵部分であり、指宿市街地の沖積平野へと続く傾斜面の一部である。

鹿児島工事事務所主体事業の農道新設に伴う法面工事によって、農道の両土手に、今から約53,000年前から1,500年前の火山灰や軽石、火山レキが約15mの厚さで堆積していることが発見された。火山灰や軽石などは、清見岳や開聞岳、池田湖、桜島、硫黄島、姶良カルデラ(錦江湾奥にあった火口)の火山噴火によって噴出されたものである。

保存処理を行った範囲では、清見岳から噴出された火山灰や火山レキが地球内部の力によって曲がったり(褶曲) したり上下にずれたり(断層)している地点である。地球内部の力のダイナミックさが一目で実感できる。また、火 山灰の色は、赤紫色や紫色などをしていることも特徴である。これは、マンガンが酸化してこのような色を呈してい ると考えられる。一箇所で、これ程多くの火山灰を観察できる場所も大変珍しい。

h. 保存に至る経緯

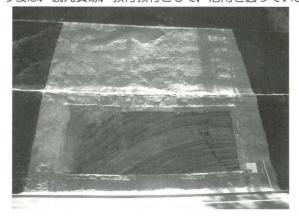
鹿児島大学教授などの指導を受けながら協議を行った結果, 地層の一部を保存処理して, 教育教材, 野外博物館(フィールド・ミュージアム), 観光資源, としての活用を図ることとなった.

鹿児島耕地事務所が、各保存処理工事について平成17年12月末に発注し、平成18年3月29日完成した。

i. 今後について

法面を含めた農道整備事業は、平成18年3月末で事業が完了した。

今後は、観光資源、教育教材として、活用を図っていきたい。



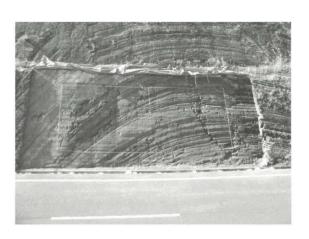




農道法面地層検出写真

53,000 年前から 5,700 年前の清見 岳や池田湖から噴出した火山灰・軽石 などが厚く堆積している。

開聞岳や桜島、硫黄島などの火山灰 も堆積している。



地層保存処理写真

褶曲層部分と断層部分の4×10m の範囲にはエポキシ樹脂を用いて保存 処理を行った。

保存範囲周辺にはモルタルを吹き付け、雑草の繁茂防止を行った。



陶板製説明看板写真

保存範囲の右下には、陶板製の説 明用看板(30cm 角の陶板を4枚) を設置した。



地層保存処理写真

保存面保護を目的として、上段にはモルタルを吹き付け、土壌崩落防止を行った。

保存面上部には、高さ 10cm の土 手を設け、雨水の流れ込み防止を行った。保存面背後の排水対策として、排水パイルを設置した。

今和泉島津家墓地について

社会教育課文化財係 中摩浩太郎

1. はじめに

今和泉島津家墓地は、指宿市岩本に所在する今和泉島津家代々の墓地であり、初代の島津忠郷から6代の島津忠冬までの各代当主とその家族が葬られた13基の墓石(図2)があり、和泉家初代から5代までの招魂碑も建立されている。 墓石の石材には、山川石(1)が使われることが多く、風化が始まると短期間で表面が劣化してしまうという特徴もある。

平成18年度において、指宿市教育委員会では市指定文化財「今和泉島津家墓地」⁽²⁾について、現状の詳細な測量調査を実施し、同時に、風化が著しく今後の保存が懸念される墓石について保存処理を実施した⁽³⁾。墓石保存処理のため解体した墓石2基からは、遺髪などを納めた木箱がそれぞれ発見された。木箱外面には墨書が残っており、風化によって塔身の戒名が消えた2基の墓石の被葬者を確定するための重要な資料となることが予想された。

本稿は、上記の内容について、現地で実施した作業内容を含め紹介する目的で記述した⁽⁴⁾。今和泉島津家墓地から発見された埋納遺物の分析について九州国立博物館の協力を得て、X線CTスキャン装置での分析及び赤外線撮影を、同館学芸部博物館学課の今津節生保全室長、鳥越俊行研究員に行っていただいた。また、墨書の釈文作成にあたっては、ラサール学園教諭 永山修一氏の指導を賜った。今和泉島津家4代忠喬の直系子孫の和泉忠郷氏には様々な教示を頂いた。記して感謝いたします。

2. 現地で実施した作業

(1) 墓地測量(図1・図2)

今和泉島津家墓地の現状記録と、その形成過程を知る必要から墓石及び燈篭配置と石畳の写真測量を実施した。このために、事前に墓地内の清掃を実施、その際、121 基の燈篭に刻まれた設置年代を下表のように記録した。また、今和泉島津家5代島津忠剛墓の裏側で遺構を発見、その内容を図化した(図3)。

| 燈篭の年号 西暦 | | 日付 | | |
|--------------|------|-------------------------|--|--|
| 宝暦4年 1754 | | 11月13日・11月15日 | | |
| 宝暦 5 年 1755 | | 4月12日・4月13日・5月13日 | | |
| 安永7年 1778 | | 11月9日 | | |
| 天明8年 1788 | | 10月15日・10月1?日 | | |
| 文政 4 年 | 1821 | 7月16日・9月21日 | | |
| 天保 2 年 1831 | | 9月?日 | | |
| 天保 15 年 1844 | | 5月18日 | | |
| 弘化 4 年 | 1847 | 3月?日·6月10日·6月?日 | | |
| 嘉永6年 | 1853 | 3月10日・7月25日・7月26日・10月?日 | | |
| 嘉永7年 | 1854 | 2月27日・12月20日 | | |
| 安政 4 年 1857 | | 5月25日·7月16日 | | |
| 安政 6 年 1859 | | 2月2日·2月3日·3月2日·?月2日 | | |
| 文久 2 年 1862 | | 11月13日 | | |

(2) 墓石保存処理・清掃作業及び灯篭の火袋修理と清掃

今和泉島津家2代島津忠温墓石・今和泉島津家3代島津忠厚の子民之進他2名のものと推定されている墓石について、 樹脂含浸による保存処理を実施した。また、燈篭(安永7年11月9日建立)1基の火袋の作成を行い取り替え、今和 泉島津家4代島津忠喬墓石及び周辺の燈篭2基について清掃作業を実施した。なお、島津忠喬墓石及び燈篭2基の清掃作業については、和泉忠郷氏の負担で実施した。

3. 発見された遺構と遺物

(1) 今和泉島津家5代島津忠剛幕の裏側で発見された石組遺構(図3)

5代忠剛 (5) の墓石は墓地の北西隅に設けられた五輪塔である。忠剛墓の裏側の石畳は土砂によって埋没していた。石畳を露出させたところ、忠剛の墓石の真裏側で図3の石組遺構を検出した。

遺構は、厚さ8cm程度、幅34cm~35cmの4枚の板石を、小口を上に埋設し、約50cm×約40cmの方形を作り出したものである。内部には、表面を15cm程度土砂が覆っており、土砂中には割れた山川石の平石が入っていた。この下位に5cm程度砕いた軽石混じりの土壌が入っており、さらに下位に長軸3~5cm程度の黒色の玉砂利が詰められていた。遺構の半分について玉砂利を除去したが、底が検出できず、板石の奥行きは60cm以上であると判明した。なお、山川石の平石については、厚さ4cm程度に丁寧に加工したもので、墓地内に同規格の石を使用した施設がないため、石組み遺構の蓋と思われる。

石組遺構はその構造から、排水施設である可能性が考えられる。ただ、他の墓には同様な施設がなく、5代当主忠剛の墓にのみこれが設置されている理由は不明である。また、排水施設なら、排水口が墓地の周囲の石垣中に見られる筈だが、見当たらなかった。他の事例を確認する必要がある⁽⁶⁾。

(2) 7号墓に伴う付帯施設(図4)

7号墓の北東 1.50mの場所と南西 1.55mの位置にそれぞれ,蒲鉾形の石の主軸を墓石に向け,1ヶ所穴を貫通させたものが設置されている。位置的にみて,覆屋の基礎を兼ねた墓石の囲い石の対角線上にあることから,台風などの際に綱を張り,覆屋を補強する目的で設置した可能性がある。

(3) 墓石に埋納された遺物について

① 埋納状況と遺物の内容(図5)

保存処理に伴い、7号墓・10号墓について墓石を解体した。宝篋印塔の塔身軸部の上面には、遺物を格納するための 穴が刳りぬかれており、木製の箱が埋納され、この上に、直接笠が載せられていた。

埋納遺物は木製の箱である。いずれも桐製と考えられる。蓋や箱の側面に虫食いがあったが、全体的に遺存状態は比較的よく、箱自体を塔身から取り出せた。内容は下表のとおりである。

| | 幅 | 奥行 | 高さ | 備考 | |
|-------|--------|---------|---------|---------------------------------------|--|
| 7号墓 | 12.0cm | 12.0 cm | 12,0 cm | 桐製(?)箱(内外は木漆塗り,木漆が剥げ墨書も剥落)・蓋有り・表面に木漆塗 | |
| | | | | 布・2面に墨書・金属製箱(錫製?)を内蔵 | |
| 10 号墓 | 10.5cm | 10.5 cm | 6.5 cm | 桐製(?)箱(箱表面に欠損箇所や剥落箇所,墨書も剥落箇所あり)・蓋有り・4 | |
| | | | ą. | 面に墨書・遺髪を内蔵 | |

③ 墨書⁽⁷⁾(図5・図6)

7号墓の墨書のうち、表面のものは、字数が多かったためか、残存する文字が下方に偏っている。その中に「居」があり戒名である可能性がある。10号墓の墨書は、舎利礼文から「心身舎利」、「本地法身」、「法界塔婆」、「我等礼敬」を各面に記したものと考えられる。



図1 今和泉島津家墓地実測図(S=1/200)

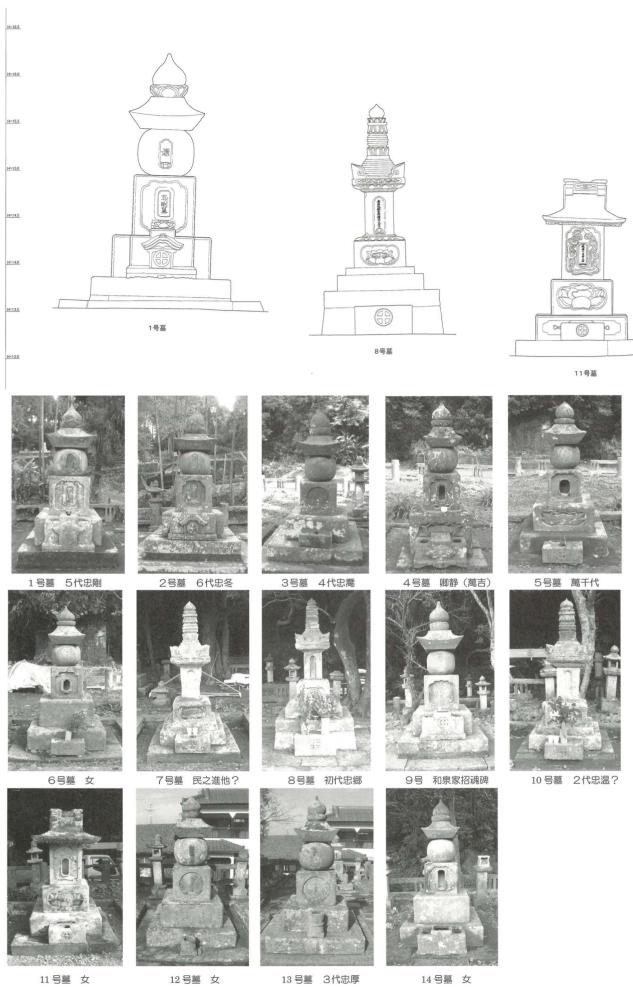


図2 今和泉島津家墓地実測図(S=1/40)及び全墓石写真

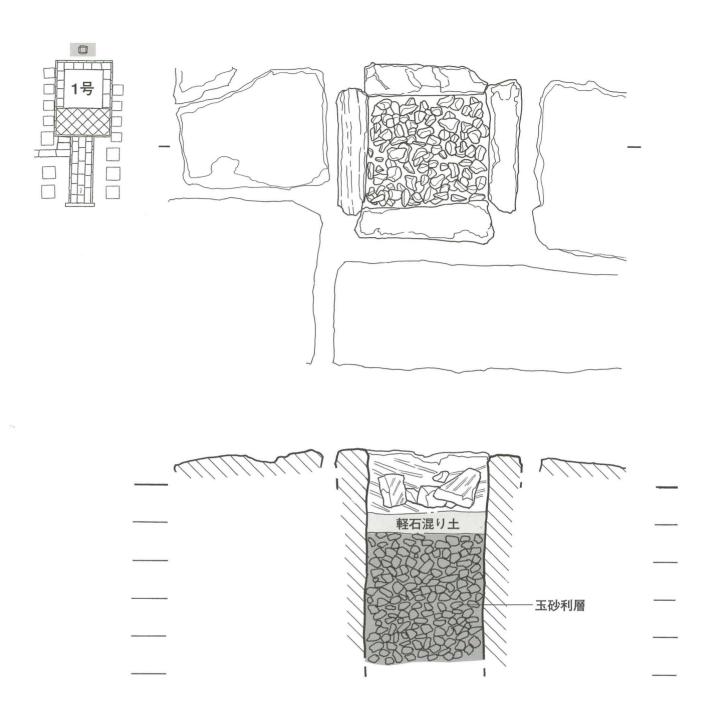


図3 今和泉島津家5代島津忠剛墓の裏側で発見された遺構(S=1/10)

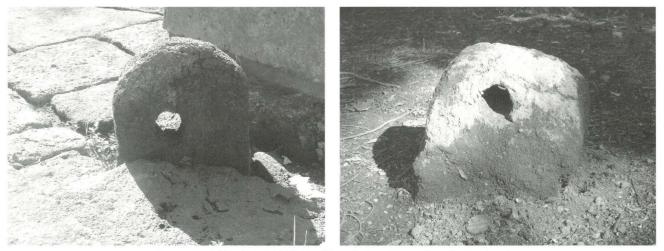


図4 7号墓に伴う付帯施設(左:北東のもの、右:南西のもの)

7号墓

表面 □□〔大ヵ〕居□〔士ヵ〕

10 号墓

| 1面 | 利 | 舎 | 心 | 身 | |
|----|--------------------|-----|-----------|------|--|
| 2面 | □ [カ 身] | 法 | 地 | 本 | |
| 3面 | □ 〔カ婆〕 | 塔 | □ 〔ヵ界〕 | [カ法] | |
| 4面 | 敬〔 | 力礼〕 | 等 | 我 | |
| | | | | | |

④ X線CTスキャン装置による分析内容(図6)(8)

7号墓金属容器(錫の可能性あり)

構造: 蓋と身は、それぞれ5 枚の金属板を組み合わせ作られている。合わせ目端部には「受け」を作り出さず、 継ぎ目をハンダのようなもので接着したものと考えられる。内面には、蓋と身の継ぎ目に沿ってダマのようなものが並んでおり、接着材が冷え固まってこのような形状になった可能性がある。

内容物: 巻物状のものが内蔵される。 斜めに入っており、縦に四つ折りにしていると推定される。 広げると大きさは約 20cm×約 30cm 程度となる。 厚さは1 mm程とのことである。

10号墓木製箱

内容物: 髪束を3周巻いて納めている。 髪の端部は縛られているか、固められている可能性がある。端部の厚みは 1.5 c m程度。 箱に納められた遺髪の長さは、画像上での計測では、50cm 以上になるとのことである。

4. 考察

(1) 7号墓と10号墓の被葬者

既述のとおり、今和泉島津家墓地が指定文化財になる段階でも、7号墓と 10 号墓の戒名が判読できなかった。このため、墓の位置関係から見て、初代と3 代の近くに位置する10 号墓を今和泉島津家2代忠温のものとし、7号墓を3代忠厚の子民之進・4代忠喬の子百次郎・5代忠剛の子猛熊の合葬墓、または女性の墓と推定している。今回の調査の結果から、7号墓と10号墓について考察してみたい。

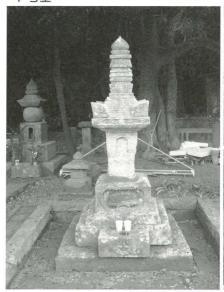
① 7号墓

まず、7号墓出土の木製箱外面の墨書についてである。表面墨書に「居」があることから、戒名「居士」である可能性が高いこと、裏面墨書には「秋八月」とあり、没年を示す可能性が高いことが言える。戒名に「居士」が付されるのは男性である。「源姓和泉氏嫡流系図」(以下「嫡流系図」という)には、人物によっては埋葬先が明記されている。

光臺寺へ埋葬された人物で、戒名に「居士」を持つ人物は、歴代当主と「萬千代」及び「卿静(幼名 萬吉)」である。 この中で、墓を特定できていない人物は、今和泉島津家2代当主の島津忠温だけである。同時に、7号墓被葬者とされてきた民之進・百次郎・猛熊の戒名には「居士」は付されず、「大童子」が付されているため該当しない。

しかも、光臺寺へ埋葬された人物で、8月に没したのが明らかなのも島津忠温のみである(安永7年8月25日).

7号墓

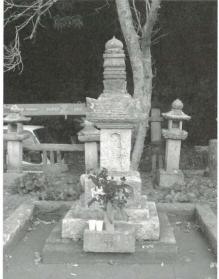






7号墓 墓石と埋納遺物出土状況

10号墓



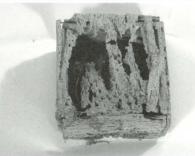




10号墓 墓石と埋納遺物出土状況













7号墓埋納遺物写真 上:表面,中:裏面, 下:金属製箱埋納状況

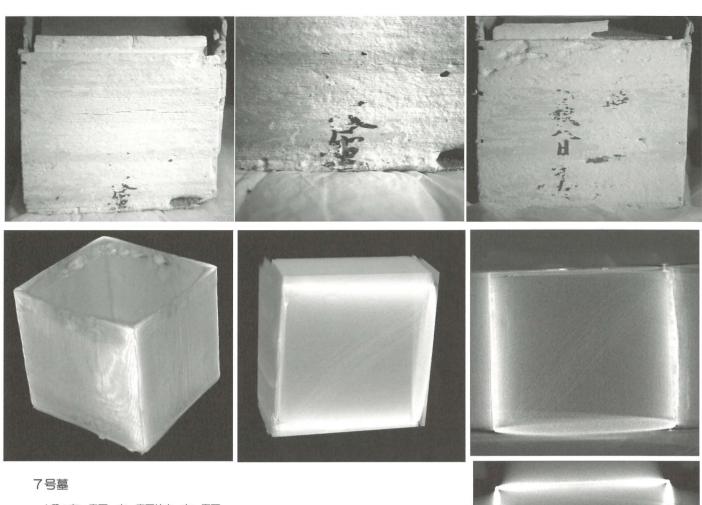


10号墓埋納遺物写真

上左:1面「利舎心身」 上中:2面「□法地本」 上右:3面「□塔□□」 下左:4面「敬□等我」

下右:蓋の状況

図5 7号墓・10号墓出土の墓石埋納遺物



1段:左 表面、中 表面拡大、右 裏面

2段:左 透視箱内部、中 透視箱内垂直断面(斜めの内容物)、右:縦断面(斜めの内容物)

3段:横断面(蓋と身の接合が見える、内容物断面)

10 号墓

4段:左 1面「利舎心身」、中 2面「口法地本」、右 水平断面(遺髪巻いた状態)

5段:左 3面「口塔口口」、中 4面「敬口等我」、右 垂直断面(遺髪断面)

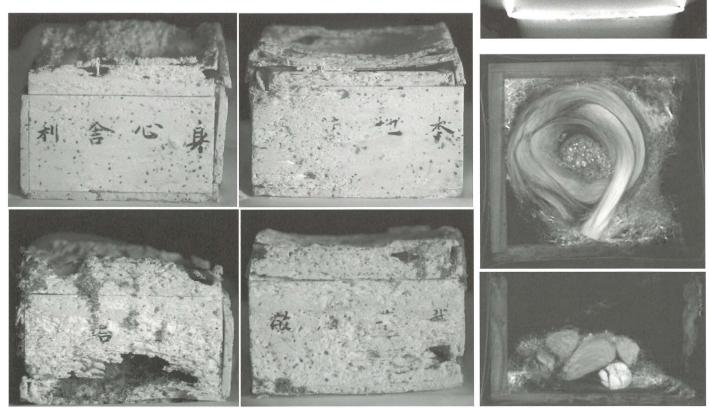


図6 7号墓・10号墓出土の墓石埋納遺物赤外線画像及びX線CTスキャン解析画像

次に、燈篭建立を年代別に示した年代別燈篭建立図(図7)を示す、燈篭は対応する墓石周囲か、墓石へ行くための通路沿いに設置されていることが見受けられる。このことは、『燈篭は、被葬者の没年中または翌年に墓石の周辺、または墓石へ至る通路沿いに建立される』という燈篭設置のルールを示すものと考えられる。忠温の没年の安永7年に建立された燈篭は、7号墓の周囲に集まっており、10号墓周辺には見られない。上記のルールに従うと、7号墓を忠温の墓とするのに矛盾はない。

以上,埋納遺物の墨書と墓石,そして燈篭との関係から見て,7号墓を今和泉島津家 2 代島津忠温墓とする妥当性は高いものと考える。

このことは、10 号墓の埋納遺物が遺髪を納めた木箱であるのに対して、7号墓埋納遺物が木箱の中に金属製の精巧な箱であること、そして、7号墓には上屋補強のためと考えられる付帯設備があり、両者に設備上の差があり、墓の格では7号墓の方が上であると想定できることと整合性がある。

② 10 号墓

では、これまで2代忠温の墓とされていた 10 号墓の被葬者はだれだろうか。墓石埋納の木箱には遺髪が一束納められていたことから、7号墓に割り当てられていた3代忠厚の子民之進・4代忠喬の子百次郎・5代忠剛の子猛熊の合葬墓とは考えにくい。遺髪は長さ 50 c m以上と長く、女性のものである可能性を窺わせる。ただ、塔身の戒名が消えており、木箱にも手がかりが記されていないので、被葬者を直接知ることはできない。

そこで、墓石そのものの構造から考えてみたい。10号墓は宝篋印塔であるが、今和泉島津家墓地にある墓石13基の中で、宝篋印塔を墓石としているのは、初代・2代と10号墓のみで、それら以外の墓石は1基の家祀型を除き全て五輪塔である。初代忠郷と2代忠温は、第4代藩主(島津家21代)島津吉貴の子供であり、兄弟に当たる。3代忠厚は、第8代藩主(島津家25代)島津重豪の第4子であり、2代忠温の死後21年して家督を継いでいる。つまり、忠郷と忠温との関係は3代と比べて深いものであった。このことから、同様の宝篋印塔を墓石とするJ0号墓の被葬者が、初代もしくは2代当主に近い関係者と考えるのが自然であろう。

7号墓と10号墓の位置関係は、初代忠郷墓(8号墓)を挟み左右に位置している。7号墓は8号墓より2.8m前に出されて設置されているが、7号墓を、10号墓と8号墓を結ぶ直線上まで後方に水平移動させた位置から8号墓までの距離を計測すると、7号墓が7.93m、10号墓が8.20mとなり、8号墓を中心にしてある程度左右対称を意識して配置したと考えられる。

| | а | b | С | d | е | f | g | h | ī | j | k | 1 | m | n | 0 | р |
|-------|------|------|--------|-----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|
| 7号墓 | 20.0 | 40.0 | 20.0 | 33. | 34.0 | 54.0 | 30.0 | 45.0 | 34.0 | 53.0 | 30.0 | 89.0 | 17.0 | 123.0 | 18.0 | 45.0 |
| | | | (17.0) | 5 | (6.5) | | | | | | | | | | | |
| 10 号墓 | 21.0 | 39.0 | 22.5 | 32. | 34.0 | 55.0 | 30.0 | 44.5 | 33,0 | 55.0 | 25.0 | 90.0 | 17.0 | 121.0 | 18.0 | 45.0 |
| | | | (17.5) | 0 | (6.0) | | | | | | | | | | | |
| 差 | -1.0 | 1.0 | -2.5 | 1.5 | 0 | -1.0 | 0 | 0.5 | 1.0 | -2.0 | 5.0 | -1.0 | 0 | 2.0 | 0 | 0 |
| | | | (-0.5) | | (0.5) | | | | | | | | | | | 1 |

次に、7号墓と10号墓の各部位の法量を比較してみる(下表)、

これをみると、各部位の法量の差は概ね平均1cm程度となり、極めて近似していることがわかる。また、墓石を含めた施設では、覆い屋の礎石配置や囲い石の配置、そして墓石への通路の規格(幅は7号で1.04m,10号で1.02m)など全ての要素が酷似している。7号墓と10号墓は、同一規格で造営したものと言っても過言ではない。つまり、10号墓の被葬者は2代忠温の近縁者であって、造営時期(没年)が近いものと考えられるのである。

嫡流系図には、2 代忠温の子は記されていない。嫡流系図には、和泉家時代の各代の当主と家族も詳細に記されていることから、忠温の家族のみ省略されたとは考えがたい。となると、10 号墓は忠温の正室の墓である可能性がある。正室は、菱刈藤馬實詮の娘で、婚姻は明和4年(1767)12月27日に行われていると記されているが、死去年についての記述は見られない。

2 代忠温が安永 7 年(1778)に死去した後、3代忠厚が家督を継いだのは、寛政11年(1799)であるから、その間今和泉島津家墓地に埋葬された可能性があるのは、忠温の正室と考えるのが妥当であろう。

(2) 被葬者没年の整理

さて、没年不詳の墓は10号と12号である。年代別燈篭建立図(図7)を基に、各燈篭建立年代と墓石の位置関係を見ると、嘉永6年(1853)に建立された燈篭群は、12号墓の周囲に設置されているのが明らかである。すなわち、12号墓の被葬者である女性は嘉永6年(1853)に没した可能性が高い。

一方、天明8年(1788)建立の燈篭群は、8号墓(初代忠郷墓)・10号墓(2代忠温正室墓か?)の背後に並び、かつ 10号墓への通路脇と8号墓への通路脇に位置している。墓石との位置関係では、8号の没年の宝暦4年・5年(1754・1755)の燈篭がその周りにあることから、天明8年の燈篭は10号墓との関連が深いように見える。10号墓への通路は、8号墓への通路に接続され、併用されているため、通路沿いの2基は同様に10号墓との関連があるものと考えられる。このことから、これらの燈篭は天明8年に10号墓への埋葬とともに建立されたと考えても差し支えなかろう。これは、前項(1)の考察を裏付けている。

ただ、天明8年の燈篭8基のうち3基は、10号墓のためのみに設置したにしてはやや離れた位置にあるのはなぜか、 天明8年の燈篭全体は、宝暦年間に建立された燈篭が本来配置されていた位置に、それを補うようにあるように見える。 天明8年は初代忠郷死去から34年目に当たり、33回忌の翌々年になる。この機に初代忠郷墓周辺の燈篭補修を兼ね、 その建立を行ったという見方もできるかもしれない。

さて、上記の内容を表にまとめたのが表1である。表中の女性の没年は山本十四一氏の調査による。

| 燈篭の年号 | 西暦 | 墓地被葬者の没年 | 墓番号 |
|---------|------|---------------------------------|------|
| 宝暦4年 | 1754 | 初代島津忠郷 宝暦 4 年 11 月(享年 13 才) | 8号 |
| 宝暦5年 | 1755 | | |
| 安永7年 | 1778 | 2代島津忠温 安永7年8月25日(享年35才) | 7号 |
| 天明8年 | 1788 | 没年不詳 (2代島津忠温正室か?) | 10号 |
| 文政4年 | 1821 | 女 文政4年7月16日(享年?) | 6号 |
| 燈篭なし | 1830 | 女 文政13年1月29日(享年?) | 11号 |
| 天保2年 | 1831 | | |
| 燈篭なし | 1834 | 萬千代(4代忠喬第1子)天保5年1月10日(享年11才) | √ 5号 |
| 天保 15 年 | 1844 | 女 天保15年2月3日(享年?) | 14号 |
| 弘化4年 | 1847 | 第3代島津忠厚 弘化4年3月10日(享年70才) | 13 号 |
| 嘉永6年 | 1853 | 没年不詳女 (享年?) | 12号 |
| 嘉永7年 | 1854 | 5代島津忠剛 嘉永7年2月(享年49才) | 1 등 |
| 安政4年 | 1857 | 卿静(萬吉)(4代忠喬第2子)安政4年5月22日(享年26才) | 4 号 |
| 安政6年 | 1859 | 6代島津忠冬 安政6年2月1日(享年33才) | 2号 |
| 文久 2 年 | 1862 | 4代島津忠喬 文久2年10月12日(享年63才) | 3号 |

表1 燈篭建立年と被葬者及びその没年

嫡流系図の中で、今和泉島津家墓地に葬られたことが明記された人物は、

忠郷・忠温・忠厚・忠喬・民之進・忠剛・萬千代・猛熊・卿静(萬吉)・忠冬

の9名である。表1には「民之進」と「猛熊」が現れない。嫡流系図には「葬来邑今和泉光臺寺」と記されているが、 これに当たる墓石が現在のところ見られない。民之進と猛熊は誕生年のうちに夭逝した男子である。表 1 の中の男性で 乳児のうちに死去した人物はいない。このことから、少なくとも夭逝した男子には墓石を設置しなかった可能性を考え ておく必要が出てくる。ちなみに、墓地内に3基の石仏があるが、どのような関連があるかは不明である。

(3) 被葬者不明の女性墓

表1には被葬者不明の女性墓が4基ある。6号・11号・12号・14号墓である。墓に記された戒名にはすべて「大姉」が付き、元服した女性の墓とわかる。

嫡流系図には、2代忠温以降 24 名の女性が登場するが、そのうち4名が上記の墓に葬られた女性であろう。ただ、 嫡流系図にはほとんどの女性の戒名が記されておらず、没年が記される例も稀である。このため直接には被葬者を知る ことができないが、候補者を絞り込む手立ていくつかあるだろう。まず、今和泉島津家墓地以外に埋葬された女性がい る。鹿児島市吉野町には昭和 49 年 6 月まで雀ヶ宮墓所という今和泉家の墓地があり、7代忠敬をはじめとした人々の 墓とともに嫡流系図に記された女性の墓があったことが確認されている⁽⁹⁾。

次に、嫡流系図には婚姻や養女になるため家を出た女性のことも言及されており、絶婚により帰家していない限り、 その人物が今和泉島津家墓地に葬られた可能性は薄い、

そして、冒頭にも書いたとおり夭逝した女子は除かれるし、4基で最も新しく嘉永 6 年(1853)に建立された12 号墓以降の記述が嫡流系図に見られる女性は同様に除かれる。

以上のことを念頭において作成したのが表2である。表2では、前記のように、①法名が合わないもの、②婚姻・養女で家を出たもの、③夭逝したもの、④12 号墓建立以降に生存しているもの、⑤他の墓地に墓石があるものについて、表中に「×」を入れた、結果、女性の墓石に該当する可能性がある女性9人が浮かび上がった。その内訳は、

正室:1名(d3代忠厚正室「於遊歌」)

側室:6名(a中村與右衛門元連女・h有村里右衛門行充女・j深栖甚之丞政清女・

l 大平宇兵衛政善娘・p海老原庄蔵養女・v河野助四郎通記女)

子 : 2名(s於才・u於農)

さて、今和泉島津家墓地の墓石は、宝篋印塔、五輪塔、家祀型に3形式に分類でき(図2)、また五輪塔は地輪の形態から3類型に分類ができる。

宝篋印塔一 7号(忠温)・8号(忠郷)・10号(忠温正室)

五輪塔 一A類:地輪に方形の区画を設け、さらに内部に被葬者名を記す区画を設けるもの

1号(忠剛)・2号(忠冬)

B類:地輪が中空となっており、内部に法名を記した石板を内蔵するもの

4号 (郷静/萬吉)・5号 (萬千代)・6号 (女)・14号 (女)

C類:地輪に正円の区画を設け内部に法名を記すもの

3号(忠喬)·12号(女)·13号(忠厚)

家祀型 - 11号(女)

それぞれの型式の墓石は、基本的にまとまって建立されており、墓域が型式ごとに分かれている(図8). 宝篋印塔には、忠郷と忠温兄弟と忠温の正室が葬られる。五輪塔A類には、忠剛・忠冬親子が葬られる。B類4基のうち2基は萬千代・郷静(萬吉)兄弟(10)である。C類3基のうち2基は忠厚・忠喬親子である。今和泉家当主は3代忠厚、5代忠剛がそれぞれ養子であるから、「墓の型式と配置は血族と婚姻関係を反映している」と見なされ、上記の宝篋印塔と五輪塔の4型式はそれぞれが血族と婚姻関係をもつグループと見なせる。ちなみに、C類の中で忠喬墓(3号)のみがB類の列の最も外辺に位置する。B類の萬千代・郷静(萬吉)は忠喬の子息であることを見ると、B類とC類は忠喬を軸とした上下方向の血縁関係を表示していることになる。

さて、各代の正室が今和泉島津家墓地と吉野雀ヶ宮墓所に埋葬されているため、今和泉島津家墓地に表2dの3代忠 厚正室「於遊歌」が埋葬されている可能性は高い。「於遊歌」は忠喬の生母であるから、両者の墓と同型式の12号墓の

| 記号 | 名 前 | 続 柄 | 履歴 | 備考 | |
|----------------------|-----------|-------|-----------------------------|---------------------|---|
| а | 中村與右衛門元連女 | 忠厚側室? | 寛政7年 於禮・寛政 11 年於貞・享和元 | | |
| | | | 年於勝出産 | | |
| b | 於禮 | 忠厚娘? | 寬政7年(1795)9月6日生(生母a) | 「松平但馬守喜生養女」 | > |
| С | 於貞 | 忠厚娘? | 寛政 11 年(1799) 8月13日生(生母b) | 「嫁島津出雲忠公」 | > |
| d 於遊歌(市田勘解由教国女) 忠厚正室 | | | 寛政 12 年(1800) 4月6日婚姻 | | |
| е | 於喬 | 忠厚娘 | 享和元年(1801)3月23日生(生母d) | 「重豪公養以為子」「入御本丸大奥」 | > |
| f | 於勝 | 忠厚娘 | 享和2年(1802)10月10日生(生母a) | 「嫁喜入多門久通」 | > |
| g | 島津鶴遊忠救之女 | 忠喬正宰 | 文化 13 年(1816)12 月 22 日婚姻 | 雀ヶ宮墓所に墓石(明治9年没) | > |
| h | 有村里右衛門行充女 | 忠厚側室 | 文政元年於友出産 | | |
| j | 於友 | 忠厚娘 | 文政元年(1818)5月2日生(生母h) | 「嫁島津又七郎」「(安政2年)絶婚帰 | × |
| | | | | 家」 12号墓以降生存 該当せず | |
| | | | 6号墓被葬者没 文政4年(1821) | | |
| j | 深栖甚之丞政清女 | 忠厚側室? | 文政 6 年(1823)久甫出産 | | |
| k | 島津助之丞久丙之女 | 忠剛正室 | 文政8年(1825)6月9日婚姻,天保7年 | 雀ヶ宮墓所に墓石(明治2年没) | > |
| | | | 於一出産 | , | |
| | А | 11 | 号墓被葬者没 文政13年(1830) | | |
| l | 大平宇兵衛政善娘 | 忠喬側室 | 天保5年女子・天保7年於須賀を出産 | | |
| m | 女子 | 忠喬娘 | 天保5年(1834)11月25日生・同年12 | 天逝のため, 法名に「大姉」用いない | > |
| | | 8 | 月 15 日没(生母 1) | | |
| n | 於須賀 | 忠喬娘 | 天保 7 年(1836) 1 月 11 日生(生母m) | 「嫁島津務久」「(万延2年)絶婚帰家」 | > |
| | | | | 12号墓以降生存 該当せず | |
| 0 | 於一 | 忠剛娘 | 天保7年(1836)2月19日(生母k)(註) | 第13代徳川家定御台所 | > |
| р | 海老原庄蔵養女 | 忠剛側室 | 天保9年(1838)於熊出産 | | |
| q | 於熊 | 忠剛娘 | 天保9年(1838)10月22日生・天保13 | 法名:凉性院殿一葉蓮心大童女 法 | > |
| | | | 年6月19日没(生母p), | 名該当なし | |
| r | 於龍 | 忠剛娘 | 天保11年6月生(生母p) | 「嫁入来院拾公寬」 | > |
| s | 於才 | 忠剛娘 | 天保 12年(1841)9月12日生(生母p) | | |
| | | 14 | 号墓被葬者没 天保 15 年(1844) | | |
| t | 島津遠江久寛之女 | 忠冬正室 | 弘化2年(1845)2月8日婚姻,弘化3年 | 雀ヶ宮墓所に墓石(明治 20 年没) | > |
| | | | 於農出産 | | |
| u | 於農 | 忠冬娘 | 弘化3年(1846)8月15日生(生母t) | | |
| V | 河野助四郎通記女 | 忠冬側室 | 天保 2 年(1831)猛熊出産 | | |
| | | 12 | 2 号墓被葬者没 嘉永6年(1853) | 3 | |
| w | 市田隼人義賢之姉 | 忠喬側室? | 文久元年於若出産 | 12号墓以降に誕生 |) |
| × | 於若 | 忠喬娘? | 文久元年(1861)5 月生(生母w) | 12号墓以降に誕生 | > |
| | L | | l . | | |

(註) oの於一(天璋院)は、島津正統系図には、天保6年生と記されている。

表2 源姓和泉氏嫡流系図に現れる女性たち

被葬者である可能性が高い。墓石の法名は「<u>遊</u>章院殿月室妙光大姉」と、俗名と一字一致していることから更に高い蓋然性を得たと言えよう。

では残り3基はどうか。五輪塔B類の6号・11号は配置から忠喬の親族と見なせる。家祀型の11号は不明である。下表には人物を表2に従い年代順に並べ、3墓石の建立年代のところにその旨表記した。表からは、各人物が3基の墓いずれかに該当するかを表記した。「◎」は「可能性高い」を、「○」は「可能性あり」を、「△」は「可能性低い」を、そして「×」は「可能性なし」を示す。

| | 家祀型 | 五輪塔B類(忠 | 喬の関係者) | 備考 | | | | |
|---------------------|------|---------|--------|-------------|--|--|--|--|
| 人物 | 11 등 | 6号 | 14号 | | | | | |
| а | 0 | 0 | 0 | 忠厚側室 | | | | |
| h | 0 | 0 | 0 | 忠厚側室 | | | | |
| 6号墓 文政4年(1821) | | | | | | | | |
| j | 0 | × | 0 | 忠厚側室? | | | | |
| 11 号墓 文政1 3年 (1830) | | | | | | | | |
| 1. | × | × | 0 | 忠喬側室(5・4号母) | | | | |
| р | · × | × | Δ | 忠剛側室 | | | | |
| S | × | × | Δ | 忠剛娘 | | | | |
| 14号墓 天保15年(1844) | | | | | | | | |
| u | × | × | × | 忠冬娘 | | | | |
| V | × | × | × | 忠冬側室 | | | | |

これをみると、uとvはどの墓の被葬者でもないことがわかる。aとhは6号墓建立以降の記録が嫡流系図になく、6号墓被葬者の可能性がある。いずれも忠厚の側室であり、忠喬とは義理の親子関係になる。また、a・h・jは 11号墓建立以降に記録がなく、11号墓の被葬者の可能性がある。a・h・j・l・p・sは14号墓建立以降に記録がない。14号は忠喬関係者の墓であり、忠剛の側室pと娘sの可能性は低い。残りの中ではlが忠喬の側室「大平宇兵衛政善娘」であるため、最も可能性が高いだろう (11)。

以上、女性の墓4基の被葬者について検討した結果をまとめると以下のようになる。

6号:3代忠厚側室墓、11号:3代忠厚側室墓、12号:3代忠厚正室「於遊歌」墓。

14号: 忠喬側室「大平宇兵衛政善女」墓

5. まとめ

今回の調査によって、得た知見は以下のようなものである。

- ① 2代忠温の墓石は、埋納遺物と燈篭などから7号墓であると判断できる。墓石には、木製の箱に金属製の箱が入れられており、木製箱の外面には没年を示すと思われる「秋八月」と被葬者が成人男子であることを示す「居」が見られた
- ② 10 号墓は、墓の形態が7号墓に酷似しており、かつ嫡流系図中の記述と埋納遺物との検討から、2代忠温正室の「菱刈藤馬実詮の女」と考えられる。埋納された木製箱の外面には「舎利礼文」が記され、内部に女性のものと思われる50 cm以上の遺髪が納められていた
- ③ 5代忠剛の墓には排水施設の可能性がある石組みの施設が確認された
- ④ 4名の女性墓は、12号が3代忠厚正室「於遊歌」の墓の可能性があり、14号が忠喬側室「大平宇兵衛政善女」の墓、6号と11号は3代忠厚側室の墓の可能性が出てきた。

さて、今和泉島津家は、一門四家の一つで薩摩藩家臣団の中で最高の家格であった。一門四家は藩の要として、鹿児

1754-1755 (宝暦4年-5年) 初代忠郷

1778 (安永7年) 2代忠温

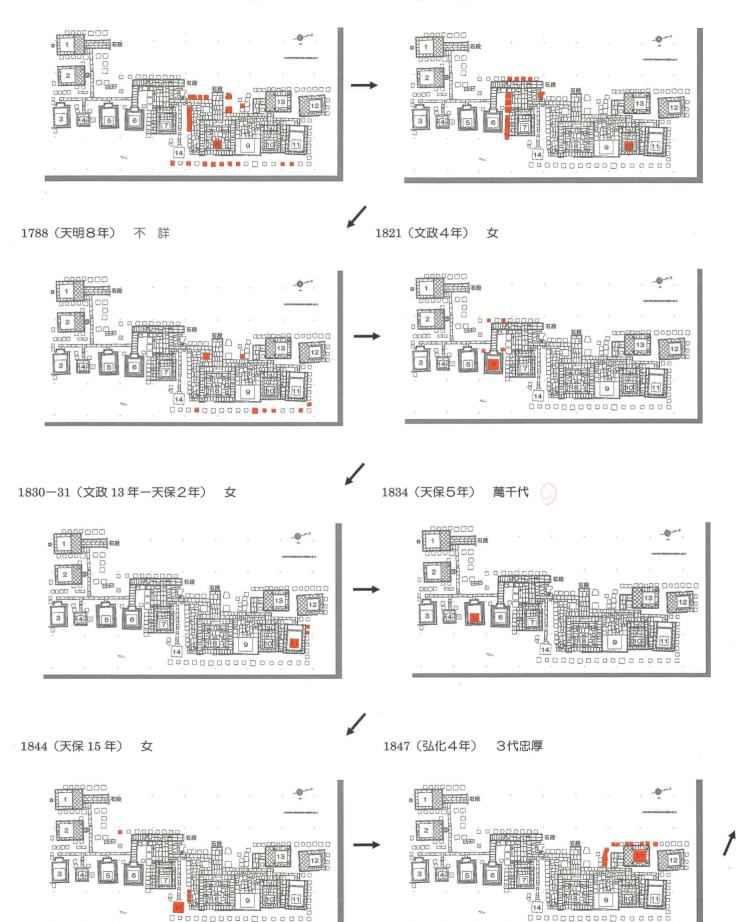
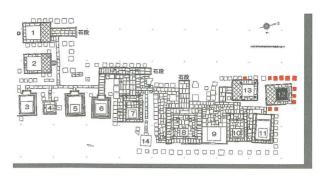
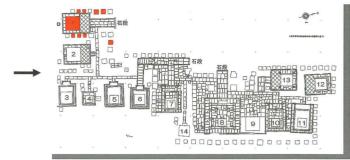


図7 年代別燈篭建立図

1853 (嘉永6年) 女

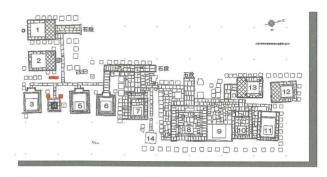
1854 (嘉永7年) 5代忠剛

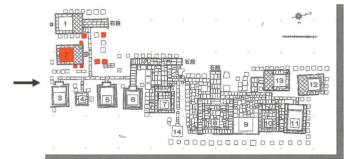




1857 (安政4年) 郷静 (萬吉)

1859(安政6年) 6代忠冬





1862 (文久2年) 4代忠喬



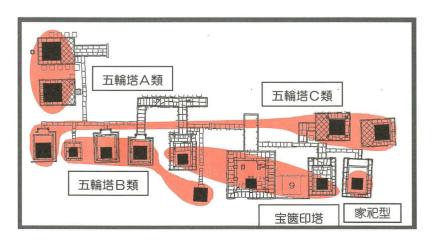


図8 墓石型式・類型による墓域構成図

島湾を取り巻くように配置されたと言われる⁽¹²⁾. 一門家は度々宗家から養子をとり、宗家との関係を緊密に保ってきたことが知られている。今和泉島津家墓地は延享元年に創設以来、各当主とその家族の墓として造営されてきた。今和泉島津家は、初代忠郷一2 代忠温の後、3 代忠厚一4代忠喬の後、5代忠剛一6代忠冬一7代忠敬の後と、2~3代毎に養子を受け入れた。その墓地を見ると、宗家の血が入った画期が墓石型式と配置によって表示されていた可能性が見て取れ興味深い。今日、我々が目にすることができる墓地の姿は、そのような今和泉家の歴史が累積した結果であることを認識し、今後その保存に努めていくべきであると考える。

(註)

- (1) 山川石は、市内山川に産する溶結凝灰岩で、黄色で目の細かい美しい外見と、加工が容易であることから、中世においては板碑に、近世においては 墓石や神社の欄干などに利用されている例がある。
- (2) 本稿では今和泉歴代当主を、延享元年(1744)に再興された今和泉家の当主島津忠郷を初代として起算して表記する。和泉家から起算した代数は表記代数に5を加えることで得ることができる。
- (3) ㈱埋蔵文化財サポートシステムが測量業務を、㈱葵文化が墓石保存処理業務を行った。
- (4) 今和泉島津家墓地は、昭和57年11月16日に市指定文化財になった。今和泉島津家とは、薩摩藩主島津宗家から別れた家であり、「一門家」と呼ばれる家臣団最高位の家格に位置づけられた。戦国時代に断絶した島津氏の一支族「和泉家」を、延享元年(1744)に薩摩藩4代藩主島津吉貴の二男忠郷が再興した家である。
- (5) 島津忠剛は、13代徳川将軍家定の御台所となった天璋院篤姫の実父である。
- (6)下鶴弘氏の教示よると、重富島津家墓地には同様な遺構は見られないとのことである。しかしながら、方形の石組遺構があるが、これは法量が異なる上に、墓の全面に設けられており、「拝み所」と言えるのようなものであるとのことである。
- (7) 墨書の赤外線撮影は、九州国立博物館の今津節生氏による。
- (8) X線CTスキャン装置による分析は、九州国立博物館の鳥越俊行氏による.
- (9) 島津久敬編 1974 『島津氏族和泉氏関係 今和泉家・玉里分家 各墓所及各写真綴』による。吉野町雀ヶ宮墓所は、昭和 49 年 6 月に改葬され、合葬墓になったようである。資料からは、雀ヶ宮墓所には7代忠敬・8代忠欽・9代隼彦の墓石と家族の墓石があったことがわかる。
- (10) 異母兄弟である.
- (11) 吹留義輝氏の教示では、島津宗家福昌寺墓地にも「後夫人」と記される側室の墓が建立されているとのことである。島津顕彰会 1985 『島津歴代略記』
- (12) 深港恭子氏教示。

(参考資料)

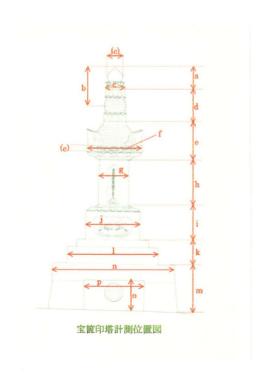
『源姓和泉氏嫡流系図』(大正14年4月1日写)

指宿市 1955 『指宿市誌』

島津久敬編 1974『島津氏族和泉氏関係 今和泉家・玉里分家 各墓所及各写真綴』

島津顕彰会 1985『島津歴代略記』

山本十四一 2001 『今和泉島津家墓地調査報告』



西之表市岳之田集落と山川福元区

一 種子島にあった福元集落 一

指宿市教育委員会山川支所教育課参事 松下 尚明

I. 発端

平成18年12月18日,土地家屋調査士の柳沢佐比重氏(鹿児島市在住・山川福元出身)がやってきた。20年ぶりの再会であったが、氏はあいさつもそこそこに息せき切って語りだした。「西之表に仕事に行ったら、岳之田集落というところに山川関係らしい祠があった。調査をして欲しい。話しを知っているのは森山正子さん。連絡場所も分かっている」と。

実はこの話、10年ほど前にも聞いていたものである。福元在住の西俊哉氏が「いやはや、びっくりした」といって、 教育委員会に飛び込んできたのだった。「なんか記念碑みたいなものがあってな。がっつい、どしゃ降いで、車の中から しか見やならんかったどん、そこに書いてあった人たちゃ、たしかに福元んし、じゃったど・・・」と興奮気味に語って いたのだ。

Ⅱ. 現地調査

平成19年1月17日, 西之表市の市民会館で熊毛地区生活学校交流集会があった。私はその講演のために渡島することになり、それを機に、岳之田集落の現地を訪れた。

(1)港で森山さんが待っていてくれた。森山さん運転の車が県道76号を中種子町向けに走りだして15分、岳之田 集落に入った。

目に飛び込んできたものがある。『新村機械』という大きな看板である。 「農機具販売・修理」と書いている。この看板、土地の人々には何の変哲もないものであろう。しかし、山川の痕跡を訪ねたい私には輝ける看板であった。『新村』なる姓こそ、山川との関係を偲ばせる象徴的存在だからである。

看板の脇には広場があり、樫の大木がどっしりと立っていた。藤蔓が巻きついたその木は、相当の年月を感じさせた。森山さんの話によれば、この大木の下に山川との関係を偲ばせる祠があったという。その奥には、こじんまりとした公民館が建っている。見渡すと、広場脇に四角形のコンクリートで囲った祠がある。それが、問題の祠である。樫木の下からここに移転されたのである。現在は、集落全体で管理しているという。なかを確認すると、『武山神社』とある。年代は大正7年、傍らには昭和14年5月



吉日と刻された石碑があり、『今村與八郎 代』という字も見える。さらにその横には、大きな記念碑が建立されている。 岳之田部落創立百周年記念碑である。碑文説明板にはつぎのように書かれている。

「明治17年8月 西之表納曽の河内覚右衛門翁の勧めに従って、 揖宿郡山川町から移住してきた南 幸助 松木甚助の両家に続いて、 島内・島外の各地からこの地に移り住む者多く、現在五十戸を数 えるに至っている。

本年, 部落創立百周年を迎えるに当たり, 記念式典を挙行すると ともに, この碑に刻して後世に伝え残さんとするものである.

昭和59年9月 建立

部落会長 外薗武夫 会計 今村義行

ほか役員一同

- 1

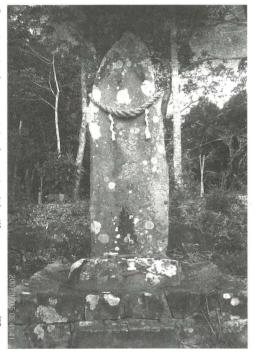
その下には、創立時の世帯主を記した銘板が埋め込まれている。「今村」「上薗」「迫田」「新村」「外薗」「松木」「和田」「坂口」などという、山川出自の姓が見える。「あぁ、ここにも山川がある。」と私は感嘆の声を上げた。

森山さんが私に語った。「石碑に刻まれた今村與八郎は、私の祖父に当たる。私が生れた昭和22年に亡くなった。72歳だった。公民館のあるこの土地は與八郎関係のもので、かつてはここに祖父の住居があった。この祠も與八郎が大事にしていたというが、その由来は全く分からない。どういう謂れのものだろうか。また、與八郎は新しく岳之田へ移住を希望する人の受け入れ人をしていたようだ。」

(2) こうした話をしていると、森山さんが「あぁ、そうだ、近くにこれに関係するかもしれないようなものがあります。見てもらいたいのですが・・・.」と遠慮がちにおっしゃった。同意すると、彼女はスイスイとハイエースの車を運転して、小高い公園に連れて行ってくれた。20段位登ると、そこには立派な頌徳碑が建っていた。並みの頌徳碑ではない。形状・材質・刻字ともに実に立派である。

「すごいものがありますね.」というと、彼女は答えた.「かつては、この頌徳碑の前で願成就という祭りがあって、踊りや相撲もありました. 出店も出ていましたね.いまは、敬老会のときに祈願祭をして、この頌徳碑に向かって一同礼をしてから手を合わせる時間を取っています。」

私は、午後の講演の時間が切迫しつつあるのを気にしながら、碑の後ろ



頌徳碑

に回った. いやはや、すさまじい漢文が一面にびっしり書かれている. きれいな字だ. おそらく墨字をノミで刻んでいったのであろう. じっくり読む時間がないばかりか、苔むして判読しがたい. 読み取りを諦めざるを得なかったが、読み下すとあらましはつぎのようであった.

「明治17年 山川港の農家は大飢の状態であった。 そのときに、たまたま山川港に来ていた河内覚右衛門は その悲惨な状態をみて、いわく、『種子島の自分の土地 に来ないか。そこで開拓をやってみないか』と、これに 喜んだ松木甚助 南幸助は、この地に来住し、懸命の 努力をつみかさね、期年にして成功をした。

これに刺激され、来住する者が続き、6家族となった. はじめこの地には住民はいなかった. 山川の人々が来住 するに及び、一村落をなした・・・・ 明治22年 建立

明治40年 改修

. ..0000 0000

・・今村圓右衛門

頌徳碑に氏名が刻されている今村圓右衛門は、與八郎の父である。明治37年に58歳で亡くなっている。おそらく、 当時の岳之田集落のリーダーの一人だったのであろう。

ところで、この頌徳碑には驚くべきことが記されている。山川の人々がこの地に移住してきた理由である。すなわち、 「明治17年 山川は大飢の状態にあった」と、

この大飢とはいったいなにか、そして山川との関係はどうなっているのか、さらには、竹山神社ではなく、なぜ「武山」神社でなければならないのか、これらが総合的に解明されなければならない。それをつぎに考察してみよう。

Ⅲ. 考察

(1)まず「武山神社」と刻された祠についてである。

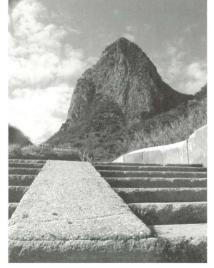
山川にある神社は現在「竹山神社」という。しかし、江戸時代に「武山神社」といわれた時代もないわけではない。だが、明治になってからは、明らかに竹山神社である。それにもかかわらず、岳之田の人々はその古名を地元にもたらし

た. それはなぜなのか. これが疑問である.

私は、「竹山」ではなく『武山』でなければならなかった理由を、つぎのように推察する。「竹山」なる〈やわな〉呼称では、〈開拓〉という荒々しい仕事を支える力にはなり得ないからであると。

歴史的な話しになるが、実は、この竹山はたんなる山ではないのである。 江戸時代までは、信仰の山、より詳しくいうと、修験道のメッカだったのである。修験道とは山のなかに籠り、人智を超えた能力と人並みはずれた超力を獲得する宗教の一派である。明治になって政府から廃止されたが、なお山川の人々の信仰厚いものがあり、後々までその信仰形態は残った。「荒神」としての信仰である。

さて、大正7年、入植から34年目。一世代にわたるひたすらな開墾作業が一段落してみると、岳之田の人々は「なにか足らない。」と考えだした。「そ



山川の竹山

うだ,自分たちを見守り,励まし,心の平安をもたらす神 — それをまだ祭っていないではないか.」「それを祭ろうではないか.いや,祭るべきだ.」と思い立ったのである。そこに至るまでには何回も協議が積み重ねられたにちがいない。

問題は祭る神である。いろいろな神がいるからである。検討の結果、自分たちには「自分たちを励ます神が必要だ」と結論したのである。その願いに答えるものこそ、故郷に鎮座する〈荒神様〉の竹山神社ではないか。この神様は、たしかに荒神様ではあるが、よく祭りさえすれば、この上もなく私たちを護ってくださる神様だと聞いている。そうだ。その竹山神社の「わかされ(分霊)」をこの地に勧請しよう。いや勧請せずばやまない。これが山川福元出身者の強烈な願いになった。衆議一決、おそらく主だった人たちが、それを実行したのであろう。

(2) 傍らの石碑はどう意味づけされるべきであろうか、昭和14年、與八郎の名前が刻された石碑のことである。 私はつぎのように考える、つまり、昭和14年とは、ながい戦争期の只中である。昭和6年に満州事変、昭和12年 にシナ事変が勃発し、時代は急速に全面戦争へ突入していた、戦線は拡大し、多くの若者が出征していった。

さて、出征していく薩摩半島の若者たちは、己が武運長久を祈るために竹山神社にさかんに参拝した。 銃後を守る女たちも、まだ明けやらぬ神社へ灯りをともして参拝を続けた。 参籠する女人たちもいた。 すべては、戦争の勝利と身内の安全のためである。

こうした風潮が種子島にも届いたのであろう。岳之田から出征していく若者たちのために、與八郎は住民の代表として山川福元の竹山神社に代参したのである。與八郎という名前の下に書かれている『代』とは、そういう意味であろう。 小さなこの碑は、まさにその記念の碑なのである。

(3)最大の問題は、「明治17年」という時代を山川との関係でどう見るかという点である。別言すれば、頌徳碑に書かれている『大飢』をどう解釈するかということである。

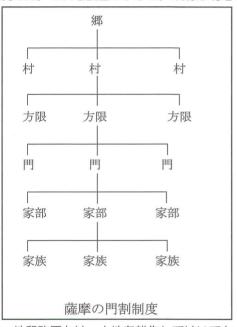
それには、時代背景を見てみなければならない。まず明治10年、西南戦争を乗り切るために、政府は大量の不換紙幣を発行した。たちどころにインフレーションが起こり、農産物価格は高騰した。これを挽回しようと、政府は明治1

3年,強力な政策転換を行ったのである。金融・財政引締め策の実施である。

この結果、全国各地は深刻なデフレーションに見舞われた。その影響は、明治15年の農産物の価格低迷となって現れた。となりの喜入町史には「農村恐慌」と記されているほどである。加えて、高額な租税の負担が続いていた。県下各地では、農家の抗議行動が起こった。明治という新しい維新がなされたというのに、少しも暮らし向きはよくなっていなかったからである。汗水たらして収穫した農産物が市場経済に晒され、価格の下落という不況状況に突入していたのである。

山川では、さらに問題が重なっていた。

頻発した『高(たか)事件』である。高事件とは、高 — 畠から収穫される石高(こくだか)をめぐって土地をどう配分するかという事件である。すなわち、江戸時代の農村支配の構造であった『門割制度』が、



明治10年代実施の地租改正によって崩壊したことに起因する事件である。地租改正とは、土地を耕作してはいても、 所有者としては認められていなかった江戸時代の農家に、所有権を認める事業である。しかも、その土地を自由に売買 できるというのである。ここに明治という時代の新しさがあった。

しかし、その土地所有を認める際に、山川では従来の門割制度とどのように折り合いをつけるかが争点になった。門割制度とは、門のリーダーである名頭(みょうず)・乙名(おつな)と、その指揮下の名子(なご)数家族とが『門(かど 一 グループのこと)』を組織し、税の負担単位になるとともに、相互扶助もする薩摩藩独特の農村制度である。このために、名頭などの親方衆は、名子たる子方衆の庇護者意識をもっていた。名子から見れば、名頭などは頼りになる存在でもあったのである。大山あたりでは、「乙名どん」「親方衆(おやかたんし)」と呼ばれていた。

こうした関係のなか、新しい時代の到来とともに、ある門は土地配分の「平等配分の原則」を守った。ある門は、名頭層への過分配分を行った。それまでの習慣から、それを是とする名子もいたが、反抗した名子もいた。その反抗した人々の事件が、世にいう高事件である。事件提訴のための裁判沙汰が頻繁に起こったのである。しかし、裁判を維持するには金がかかる。泣く泣く裁判を諦める人々も出てきた。

加えて、政府は、個々の農家に「税金は金納で」と容赦なく迫ってきた。必ず一定額を出さなければならないのだ。名子層の人々は、それによって、返す見込みのない借金を背負わざるを得なかった。返済できずに、ついには、担保の土地を取り上げられる人々もいた。結果は、小作農への転落である。

それだけではない。この年、暴風雨の打撃がこれに追い討ちをかけた。県下の被災家屋は倒壊2万5000戸と記録

されている。貧弱な掘っ立て小屋風の家に住んでいた山川の名子たちの被害も相当のものがあったであろう。このとき、名子層の人々は『生活逼迫の極』に立たされたのである。名頭・乙名層の人々ならば、不況や暴風雨がやってきても、それに耐え得る経済的基盤はあったであろう。しかし、名子層の人々は全くちがっていた。頌徳碑に刻された〈大飢〉なる文字は、名子層にとっての大飢にほかなるまい。

その人々が、種子島の人・河内覚右衛門と出会った。覚右衛門のなんというありがたい申出であったろうか。山川では手放さざるを得なかった土地を、種子島でならば持てるのだ。小作農ではなく、自作農として再出発できるのだ。もはや、名頭・乙名層に気兼ねする必要などさらさらない。さらに気候は温暖、人々は人情厚い。移住をするのならば、それに勝る土地がほかにあろうとは思われない。ただし、一からの出発である。それでもいい。失うものはなにもない。それが、移住を希望した人々の思いであったろう。

しかし、ことは慎重でなければならない。よって、試しに南・松木の両家が渡った。そうして、「期年」、つまり満一年にしてみごとな成功を見た。この成功に刺激され、今村家などの移住希望の本隊が入植したのであろう。ここには夢があり、仕事をすればしただけの成果があった。かつての人間関係に煩わされることなく、平等な人間関係のなかで仕事ができる。これが希望でなくてなんであろう。

もっとも、種子島に移住した人々は山川の人々だけではない。 甑島からも、桜島などからも移住している。しかし、山川との大きなちがいがある。それは、県の政策として実施されたのである。旧藩時代から「庄内移り(しょうねうつい)」という政策が採られていたが、明治期にも人口空漠地に集団移住させる政策が継続されていたのである。よって、それらには県からの補助金もでた。しかし、山川の場合は政策によるものではなく、河内覚右衛門の善意によるものであったことに留意しよう。また、甑島の600戸が入植したのは明治19年であるが、山川の場合は甑島に先だつ明治17年である。これもまた、入植の恣意性を暗示していよう。

(4)とはいえ、岳之田に入植した山川出身の人々が、いつ・どのようにして土地を譲り受けたかは不明である。與八郎の住んでいた土地も名義は数名の連名だったと聞く。このことから推察し得るのは、案外、連名名義が多かったかもしれないということである。そうだったとしても、河内氏からどのようにして、どのような値段で譲り受けたかは分からない。

しかし、中種子の牧川に高山七太郎なる人がいる。戦前に600町歩にも及ぶ広大な山林を、財源乏しい中種子のために破格の廉価で譲渡した人である。この例のように、河内覚右衛門も同様の廉価での譲渡をしたのではないかと推察する。

かくして、岳之田の人々は、奇特な人・河内覚右衛門の恩を語り継いだにちがいない。記念碑に「覚右衛門翁」と雅語 的表現で刻まれていることにそれがよく現れている。また、さまざまな思いを持っていたであろう山川のことも語って いたにちがいない。少なくとも、入植世代第2代目の今村與八郎の時代までは確実にそうであったろう。

だが、ときは流れ、世代が変わった。現在は第4代目である。伝承は切れ切れになってしまった。とはいえ、わずかに部落創立百周年にはその思いが結集し、山川伝来の棒踊りも披露されたのであった。しかし、その後、歴史の継承はどのようになされているのであろうか。私はその実態を知らない。

Ⅳ. 課 題

以上の考察を受けて、今後の課題はつぎの6点である。

- (1)は、現地における説明板の設置である。せめて、公民館の予算(5万円程度)で建てられないものかと考える。 いまのままではあまりにも寂しすぎる。いまならばそれが可能であろう。いや、現在が最後のチャンスかもしれない。
- (2)は、岳之田集落の武山神社の『社(やしろ)』化である。現在は小さな祠にすぎないが、『社』をつくれば、もっとその意義は高まろう。山川・竹山神社の神主を招いて落慶を祝うことができれば、新しい「村づくり」へのアクセル

になるであろう.

(3)は、開拓の苦労の記録化である。おそらく、水の心配から始まって、小屋作り、灯りの確保など相当の苦労があったにちがいない。それをどのように記録するか、記録して残せるか、これが課題である。自然との闘いの日々、また自然と和解する日々の一つひとつの記録である。その歩みを記録として残し得れば、一つの集落の形成史が明らかになるはずである。それは岳之田集落にとって有益なだけではない。集落というものがどのように形成され、どのように発展していくものなのかの実験例ともなるのである。

(4)は、出身地である福元となんらかの交流を開始することである。両地は残念ながら、相互によそよそしい。相互認識もほとんどない。そこには、以上の考察で述べた歴史的理由もあるかもしれない。が、いまはその恩讐を超えて、相互交流をはじめるべきときだと考える。それが相互向上に役立つからである。地域というものは、自己完結的に自分の土地だけを見ておけばそれで足りるという時代ではなく、相互の交流人口を増やすことがその地の活性化に大いに寄与するのである。

(5) は、山川・福元での資料集めである。その多くはすでに散逸しているかもしれない。「去る者は日々に疎し」というように、地域においては急激な忘却が進行しているかもしれないからである。が、やはり資料の収集は必要だ。とるに値しないと思われるようなものでも、光の当て方によっては重要な歴史資料足り得るのである。ここに、「聞き書き」という方法が登場する。山川福元には、泣いて別れた親族がいたにちがいないのである。その方々の伝承を聞き、記録化する方法である。

そういう点からすれば、内薗茂男(71歳)氏の叔母(最近97歳で種子島にて死去)が、その伝承者の一人であったらしい。その息子さんは伊牟田姓を名乗っておられるが、ここらに聞き書きの手がかりがあるかもしれない。関係者の伝承によれば、そのなかには『タンコどん』をしていた人々が多かったらしいのである。サトウキビ生産地である種子島における樽職人としての仕事である。とはいえ、村方の樽職人は農業を営むかたわらの仕事で、「農間余業の一種」であったのである。山川の名子層として副業的に習得した技術を種子島で生かしたといっていいであろう。その本願は自作農への思いであったろうから。

(6)は、岳之田の土地を提供した河内家の研究である。河内家は、島主・種子島家につながる名門中の名門である。 よって、浮免地・抱地、水田など多くの土地を所有していたにちがいない。ただし、水田をめぐっては、明治10年代 に南種子茎永村における法廷闘争に巻き込まれている。農家原告590人と士族17人の6年間にわたる闘争である。

農家は主張した。「この田は自分たちの先祖が耕してきた土地だから、新しい政府がいうように自分たちのものだ」と。 一方、士族たちは「いや、その土地は給地であり、先祖代々自家のものであった。だからこそ、島主への貢租も農民の小 作料からちゃんと納付してきたのだ。田の所有権は自分たちに帰するべきは論を待たない」と。この裁判闘争を現地では 「百姓ドンチ騒動」という。

さて、その土地所有権獲得闘争に河内家は主導的な役割を果たしていることに注意しなければならない。しかも、その闘争に勝利しているのである。当時の法律論からいえば、これは全く理不尽なことであった。が、残念ながら、新時代の法律論よりも、種子島においては士族と農民の力関係が裁判闘争に反映する時代だったのである。

だとすれば、問題は、茎永村における農民からの田の収奪と、岳之田における土地譲渡とがどのように関係するのか、 これである。

あるいはまた、明治9年、鹿児島県は「山林原野等官民所有区別処分方法」を定め、開拓意欲のある士族に山林荒蕪の地を払い下げ、農業・牧畜業を営ませる政策を採ったことがある。すなわち、岳之田の地は、河内家へのこうした払い下げ地だったかもしれないのである。だからこそ、福元の人々を誘い、開拓をさせたのではなかったか。だとすれば、その提案と土地譲渡は覚右衛門の経済的戦略だったともいい得るのである。

いずれにしても, 「たまたま山川港にやってきた」覚右衛門という人物は, とことん〈翁尊称〉の対象なのか, それと も戦略的な目を持った〈政治家〉なのかの分析が必要である. とはいっても, 岳之田移住の人々にとっては, 恩人たるこ と論を待たない。問題は、覚右衛門という人物のエートスの析出なのである。

以上が現時点における調査の結果とその考察である。研究はすべて今後に属している。いまはまだそのスタートラインに立ったにすぎない。

追記

- 1. 現地調査には、森山正子さんが同行してくださった。時間のないなかでの「祖父の思い出話」など聞かせていただいて感謝したい。
- 2. 岳之田部落創立百周年記念式典における外薗会長の「あいさつ文」「頌徳碑裏面の碑文」を種子島開発総合センター(鉄砲館)の柳田さんからお送りいただいた、記して感謝したい。
- 3. それらによれば、河内覚右衛門の山川訪問は、「温泉湯治のため」とされている。また、山川の人々はいきなり岳之田に入ったのではなく、庄司浦など各地にある河内氏所有の土地を視察した結果、この地を最適地としたとされている。
- 4. 南・松木に続いて入植した人々は、外薗半五衛門・上薗太惣右衛門・上薗市助・今村圓右衛門の家族であったらしい。
- 5. 頌徳碑の文面によれば、河内覚右衛門翁は明治19年に亡くなっている。頌徳碑は、翁を追慕する思いから建立されたものだという。それだけではない。意訳すれば、「今日の繁栄は、翁の恩恵の賜物であり、後々まで敬虔の誠を尽くし、祭典の儀を執行しよう。実り豊かなときは翁に報告し、凶作のときも翁に報告しよう。翁の霊は、わが子孫を決して棄てはしないであろう」と。

(平成19年2月7日 記す)

フォーラム「火山で埋もれた都市とムラーイタリア・日本・インドネシアー」を開催して --アンケートの集計から---

お茶の水女子大学 鷹野光行

1. はじめに

指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ は、平成 18年4月に開館 10周年を迎えた。筆者を研究代表者とする、文部科学省科学研究費補助金による特定領域研究「わが国の火山噴火罹地における生活・文化環境復元」研究班は、これに便乗させてもらって、平成 18年11月26日に COCCO はしむれの講堂を会場に「火山で埋もれた都市とムラーイタリア・日本・インドネシアー」と題する市民向けのフォーラムを開催した。本稿はその際に行ったアンケート調査の概要である。

2. 参加者・アンケート数

当日参加していただいた方々にお名前を記入するノートを置かせていただいたが、お名前を記してくださった方が106人おられ、これはだいたい50人ほどの参加があるだろう、という筆者の当初の予想をはるかに上回る数であった。その原因と考えられるところは後に述べるが、アンケート用紙も予想の2割増で60枚しか用意していかなかった。したがって用紙不足もあってアンケートの回収数は47枚、参加してくださった方々の半分もなかったのは自らの失敗とは言え、残念であった。とりあえず参加者に対する回収率は44.3%、となる。

3. アンケート結果

アンケートの結果によると、おいでくださったのは指宿市内の方が4分の3、鹿児島県内まで含めると 90%近くが「地元」の方、ということになる。宣伝効果をねらって全国紙にも後援を依頼し、実際にこの催しの紹介が新聞の片隅に載ったのであるが、それによって来られたのは一人、でも、それがなければこの方は来てくれなかったのかと思うと、一人とは言え宣伝効果があった、と断じたい。アンケートの記入はなかったが筆者の確認したかぎり、関東地方からの参加者はすくなくとも 10 名はおられた。

事前にポスター・チラシを作成し、9月半ばに鹿児島県内をはじめとする 250 ヵ所ほどの各地の博物館・教育委員会・研究機関などに配布してあったが、それによって催しを知った方は 12 名、25%あまりであった。絶対数は少ないが、割合からするとこれは一定の効果があったと見てもよいのではないだろうか。また博物館で、いろいろな催しごとについて最大の宣伝効果を上げるのは「ロコミ」である、とよく言われるが、ここでもその通りであった。回答結果で、ひとから聞いてこられたとする方が 44.7%、その他の中の「館から連絡があって」なども加えると約 60%の方が「ロコミ」によってフォーラムを知り参加してくださったことになる。数字で示すと無味乾燥になってしまうが、ロコミが機能するにはふだんの博物館への地域の人々の高い関心度がある、あるいは関心を持たせるような日常の博物館職員たちの活動があって成り立つものなのかもしれない。博物館から連絡があったので参加した、と記入した方が 13%もあり、フォーラム開催にあたっての COCCO はしむれの方々の相当な努力があったことを思わせる。このことが筆者の参加者数に対する読みを大きく狂わせる源でなかったか、と愚考する。

内容については「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」をあわせて 74.5%の方が「わかりやすかった」とした。しかし「少しむずかしかった」も 20%近くの回答がある。今回の内容のレベルはそれぞれで、少し専門的なものからまったく一般向けでわかりやすくユーモアたっぷりの講演までバラエティに富んだものであったと思う。それぞれの興味を持ったところごとに、むずかしく感じたり、わかりやすかったりというばらつきもあったのだろう。全くの「初心者」向けならば少し難しい、とする指摘も自由記述欄にはあった。プログラムを組む際に配慮したのはやはりいかにお客様を飽きさせないか、という点で、まず今回の目玉でもありたぶん大部分の方が関心を持つであろうイタリアの話を

青柳正規国立西洋美術館館長に最初にしてもらい、次に江戸時代の浅間山の噴火による災害を被った遺跡について、そ して休憩を挟んで地元の話、そして最後にまた外国、インドネシアという順番であったが、この順番はかなり効果的で あったように思う、インドネシアと指宿の話が入れ替わっていたらだいぶ状況が変わっていただろう、指宿の話による 盛り上がりが最後まで続いた、という感じであった、この順番の妙が「わかりやすかった」にもつながっていたのだろう。 長すぎた、持ち時間を3分の1程度に、とする指摘もあったが、開催する側からするとこれは無理な注文で、学会など の研究発表では15分程度、という持ち時間しか与えられないこともあるが、今回のような性格のフォーラムではこれ でお許し願いたく、できるだけたくさんの情報をお伝えしたかった。

1番興味を引いたテーマからもそれがいえる。一つだけ回答してもらおうという意図のアンケート項目であったのだ が、期せずして多くの方からの複数回答があった。指宿の話に興味を持ったというのが約70%、イタリア32%、イ ンドネシア 21%, 浅間山 15%, である。浅間が少なくなるのは指宿の地元の方がほとんどという参加者の中では当然 であろう。日本各地に「~のポンペイ」とする遺跡があるがその代表的な遺跡が今回の発表でも取り上げられた浅間山の 天明3(1783)年の噴火で埋もれた旧鎌原村であり、またもう一つの代表が指宿市の橋牟礼川遺跡である。と言えるだ ろうか、そうしたつながりで今回は群馬県から代表的な遺跡例を紹介していただいた、参加者の多くにとって決して身 近なテーマではなかっただろうが、時代と地域を違えても、同じく火山という自然災害の中で人々の営みがどうであっ たのか、比べることは意義深いことであるはずである。日本列島は火山列島というくらいであり、日本列島の遺跡は多 くが火山噴火の何らかの影響を受けているのではないだろうか、今後は北海道などの遺跡についても比較検討する場を 持ってみたいものである.

参加いただいた方は、男性 45%、女性 51%、ほぼ半々としてよいだろう、ご夫婦連れでおいでになった方も何組か あったようだ、年齢構成上は、60歳以上の方が57.4%、50歳代を含めると70%以上である、博物館の役割は、生涯 学習の地域における中核的な拠点であるとか、資料を通じての文化の継承や地域文化の創造に向けての役割、などが改 めて強調されるが、生涯学習という観点では、特に学校教育から離れた、あるいは平均寿命のあがる中で自分で使うこ とのできる時間を多く持つ人たちを対象とする活動、また文化の継承や地域文化の創造という観点では学校教育のまっ ただ中にいる年齢層をも強く巻き込んだ活動が期待されるところである。そういうところからすると今回は年齢層の偏 りから見て、生涯学習的な観点で評価される試みであったといえるのだろうか、

以下にアンケート調査のデータを示す.

どちらからおいでですか

1 指宿市内(35) 2 鹿児島県内(7) 3 その他(横浜市・東京都2・熊本)

この催しをどのようにして知りましたか

- 1 ポスターを見て(12)
- 2 今日博物館に来て知った(O)
- 3 新聞などで知った(1)
- 4 ひとから聞いて(21)
- 5 その他(市の広報紙で・館からの連絡で6 前回の講座で 知った)

全体的に内容はいかがでしたか

- 1 とてもわかりやすかった (20) 2 わかりやすかった (15)
- 3 少しむずかしかった (9)
- 4 とてもむずかしかった (O)

5その他(0)

一番興味を引かれたのはどのテーマでしたか

- 1 イタリアの火山と遺跡(15) 2 群馬県における火山災害と遺跡(7)
- 3 火山噴火と戦った古代隼人のムラ(33)4 火山噴火で壊滅したジャワの古代王国(10)

5 とくになかった(0)

5 特にご意見やご感想がおありでしたらどうぞお書きください (順不同)

- ・地元の方がたくさんいらしていて驚きましたが、地元の遺跡に関心のある方が大勢いらっしゃるのはすばらしいことだと思います。 そういう状況で、〇〇さんのお話はとてもわかりやすかったと思います。
- ・活火山の近くにいる鹿児島は、温泉や火山の恩恵も受けているが、それは火山の噴火が起きればいろいろな被災を受ける可能性があるのが、昔の情報(今日の話)から考えさせられました。
- ・地元開聞岳噴火のお話大変よくわかり興味を持って聞きました。
- ・火山灰でそのまま残っているであろう村や建物の跡をみてみたい。
- ・指宿の身近な話でとても関心が持てた。又、開聞岳が噴火する事もあると思うと恐ろしい気もした。
- ・〇〇先生 お疲れ様でした。とっても良かったです。これからも頑張って下さい。
- ・大変興味深くお話をうかがいました。このような勉強の機会を下さいましてありがとうございました。
- ・楽しいフォーラムでした。いろいろ新知識を得ました。先年バリ島へ行きましたが、〇〇先生のお話を聞いていなくて 残念に思いました。
- ・身近の橋牟礼川遺跡、知らなかったので大変勉強になりました。ジャワの古代王国一仏教関係に従事しているのでわかりやすくてよかったです。ありがとうございました。
- ・先生方の話し方が聞きやすく、絵をみる事で更に判りやすく、日常あまり付き合いのない事なのに楽しく時間が過ごせました。理解と楽しさが別ですみません。ありがとうございました。
- ・古代に於ける色々な調査研究、ご苦労が偲ばれます。
- ・ソンマヴェスビアーナのお話にひかれて鹿児島から来ましたが、〇〇先生のお話がとても興味深かったです。鹿児島は ナポリ市と姉妹都市ですし、共通する歴史(火山に関わる)を持つ地域(カンパーニャ州と鹿児島県)としての学術交流 が更に深くなり、このような一般向けフォーラムがまた開催される事を希望します。今日は本当に有意義なフォーラムの 開催ありがとうございました。
- ・OOさんの話がおもしろかった。全体として1時間半程度におさめてほしい。持ち時間を三分の一にしてほしい。短く話す。長すぎます。
- ・始めてであれば少しむつかしい気がするが、国内外を含めた生活等がよく分かる。今後、機会があれば開催してほしい。
- ・暗くしなくても、パワーポイントの画面が見えたのではないかと思います。今後、ご検討下さい。
- ・それぞれの発掘報告の感じで各報告の関連性は今ひとつの感じでした。火山で埋もれる「埋もれ方」を共通テーマに話を聞きたかった気もしますが、今日は非常に有益でした。
- ・大変勉強になりました。話の内容が解りやすかった。
- ・火山噴火又附随する災害要因、今後各地で発見されると思うが、指宿の開聞岳の災害を調査することにより、日本の火山災害の先駆者となって欲しい。
- ・学者の苦労談を身近で聞いて感動致しました。
- ・季節を問わず海外に於いても、調査研究大変でしょうと思います。

6 お差し支えなければお教えください

- 1 性別 男(21) 女(24)
- 2 年齢 10代(2) 20代(5) 30代(2) 40代(4) 50代(7) 60代(14) 70代以上(13)
- 3 ご職業 (省略)

4. おわりに

自由記述欄や2の口コミの状況を見ると、ここに参加してくれた方々と COCCO はしむれとのふだんのつながりが少し見えたような気がする。内容もさることながら、話者の魅力・話し方というのもこうした試みの成功の要因の一つとなることもわかる。自由記述欄に書いてくださったものをすべて紹介したが、一部個人名は避けたこと、及び足りない部分を補ったところのあることを記しておく。







